

# 個別最適な学びと協働的な学びの 一体的な充実

～ICTを活用した新たな学習活動を通して～



令和5年2月  
東京都多摩教育事務所



ホームページに掲載

# 目次

## 基本的な考え方

I 研究の背景	1
II 研究主題	2
III 研究の視点	2

## 研究の内容

◆ 研究構想図	6
◆ 実践事例の読み方	7
◆ 実践事例	
＜実践事例 1＞小学校 国語	学習の個性化 … 8
＜実践事例 2＞小学校 社会	学習の個性化 … 10
＜実践事例 3＞小学校 算数	指導の個別化 … 12
＜実践事例 4＞小学校 理科	協働的な学び … 14
＜実践事例 5＞小学校 図画工作	学習の個性化 … 16
＜実践事例 6＞小学校 体育	協働的な学び … 18
＜実践事例 7＞小学校 特別の教科 道徳	協働的な学び … 20
＜実践事例 8＞小学校 総合的な学習の時間	学習の個性化 … 22
＜実践事例 9＞小学校 特別活動	指導の個別化 … 24
＜実践事例 10＞中学校 国語	協働的な学び … 26
＜実践事例 11＞中学校 社会	学習の個性化 … 28
＜実践事例 12＞中学校 数学	協働的な学び … 30
＜実践事例 13＞中学校 理科	協働的な学び … 32
＜実践事例 14＞中学校 音楽	協働的な学び … 34
＜実践事例 15＞中学校 技術・家庭（技術分野）	指導の個別化 … 36
＜実践事例 16＞中学校 技術・家庭（家庭分野）	指導の個別化 … 38
＜実践事例 17＞中学校 外国語	協働的な学び … 40
＜実践事例 18＞中学校 特別の教科 道徳	協働的な学び … 42

## 研究のまとめ

◆ 研究のまとめ	44
----------	----

## 講師資料

◆ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	46
-------------------------	----

# 基本的な考え方

## I 研究の背景

### 1 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

学習指導要領等では、子供たちの現状を踏まえ「子供一人一人の興味や関心、発達や学習の課題等を考慮の上で、それぞれの個性に応じた学びを引き出し、一人一人の資質・能力を高めていくことが重要であり、各学校が行う進路指導や生徒指導、学習指導等についても、子供一人一人の発達を支え、資質・能力を育成するという観点からその意義を捉え直し、充実を図っていくことが必要である<sup>\*1</sup>」とされ、『個に応じた指導』を一層重視する<sup>\*2</sup>ことが求められている。

また、「個に応じた指導」の充実を図る際、「各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図る<sup>\*3</sup>」ことも示された。

さらに、中央教育審議会答申では、『個別最適な学び』が『孤立した学び』に陥らないよう、これまでも『日本型学校教育』において重視されてきた、探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する『協働的な学び』を充実する<sup>\*4</sup>ことが示された。

これらのことから、各学校では、各教科等における資質・能力を確実に育成するために、ICTを活用した新たな学習活動等を積極的に取り入れるとともに、授業において個別最適な学びを協働的な学びに生かし、更にその成果を個別最適な学びに還元するなど、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることが重要であると捉えることができる。



### 2 今日の学校教育が直面している課題

現在の学校は、以下のような様々な課題に直面しており、子供の発達や学習を取り巻く個別の教育的ニーズを把握し、様々な課題を乗り越え、一人一人の可能性を伸ばしていくことが課題である。<sup>\*4</sup>

#### 子供たちの多様化<sup>\*4</sup>

- 発達障害の可能性のある特別な教育的支援が必要な児童・生徒、外国人の児童・生徒、相対的貧困状態にあるとされる児童・生徒、不登校等の児童・生徒が在籍している。

#### 学習意欲の低下<sup>\*4\*5</sup>

- 「自ら課題を見付け、それを解決する力」を育成するため、他者と協働し、自ら考え抜く学びが十分になされていない。学年が上がるにつれて、学習意欲が低下する傾向がある。
- 「難しいと感じる問題でも、最後まであきらめずに取り組んでいる。」の質問に対して、肯定的な回答をした児童・生徒の割合は、小学校より中学校が10～15ポイント程度低い。

#### 情報化の加速度的な進展に関する対応の遅れ<sup>\*4</sup>

- 数学や科学に関するリテラシーは引き続き世界トップレベルである一方、言語能力や情報活用能力、デジタル時代における情報への対応などに課題がある。また、子供たちのデジタルデバイスの使用について、我が国では、学校よりも家庭が先行し、「遊び」に多く使う一方「学び」には使わない傾向がある。

\*1 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（平成28年12月21日 中央教育審議会）

\*2 小学校及び中学校学習指導要領（平成29年告示）

\*3 小学校及び中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編

\*4 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（令和3年1月26日 中央教育審議会）

\*5 令和3年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」調査結果報告書（令和4年3月 東京都教育委員会）

## II 研究主題

# 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 ～ICTを活用した新たな学習活動を通して～

### 1 目指す子供像

研究の背景を踏まえ、本研究では目指す子供像を次のように捉えた。

各教科等における 資質・能力を確実に 育成する上で	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 学習の進め方を自ら調整できる子供</li><li>○ 興味・関心に応じ設定した課題の解決に向けて、学習を深め、広げる子供</li><li>○ 多様な他者とともに問題の発見や解決に挑む子供</li></ul>
---------------------------------	---

### 2 研究の方向性

児童・生徒の資質・能力の育成のためには、「各教科等の特質に応じ、地域・学校や児童・生徒の実情を踏まえながら、ICTを活用した新たな教材や学習活動等も積極的に取り入れつつ、それにより実現される新しい学習活動について、『個別最適な学び』や『協働的な学び』の充実に効果を上げているか確認しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていくこと<sup>\*6</sup>」が示された。

このことから、本研究では、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るために、次の4つの視点で取り組むことによって目指す子供像が達成できると考え、研究を進めることにした。

- ① 各教科等の単元（題材）における個別最適な学びと協働的な学びを具体化した上で学習活動の充実を図ること
- ② 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTを活用すること
- ③ 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付け、各教科等の学習過程の充実を図ること
- ④ 個別最適な学びと協働的な学びの取組を評価すること

## III 研究の視点

### 視点1 単元（題材）における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

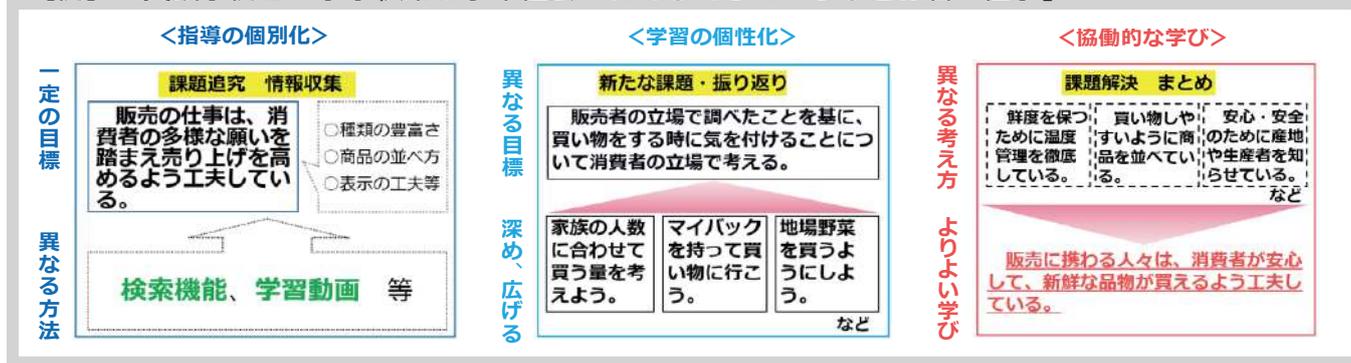
各教科等の目標や内容等を踏まえ、単元（題材）において「個別最適な学び」の「指導の個別化」、「学習の個性化」及び「協働的な学び」について、令和3年3月版<sup>\*6</sup>を参考に具体化した上で学習活動の充実を図ることにした。

個別最適な学び		協働的な学び
<b>&lt;指導の個別化&gt;</b> 一定の目標を全ての児童・生徒が達成することを目指し、個々の児童・生徒に応じて異なる方法等で学習を進めること	<b>&lt;学習の個性化&gt;</b> 個々の児童・生徒の興味・関心に応じた異なる目標に向けて、学習を深め、広げる こと	<b>&lt;協働的な学び&gt;</b> 異なる考え方を組み合わせ、よりよい学びを生み出すこと

例えば、小学校第3学年社会「わたしたちの暮らしとお店の仕事」においては、指導の個別化の「一定の目標」を「販売の仕事が消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう工夫していることを理解すること」とするとともに、「異なる方法」を「検索機能や学習動画等、個々の特性や学習状況等に応じて学習を進めること」とした。また、学習の個性化の「異なる目標」を「販売者の立場で調べたことを基に、消費者の立場で自分が買い物をする時に気を付けること」とするとともに、「学習を深め、広げる」を「販売者と消費者の両面から考えること」とした。そして、協働的な学びについては、「販売の仕事について調べたことを基に、児童同士が異なる考え方を組み合わせることで、よりよい学びを生み出すこと」とした。

\*6 学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（令和3年3月版 文部科学省初等中等教育局教育課程課）

【例】 <実践事例 2> 小学校第3学年社会「わたしたちの暮らしとお店の仕事」



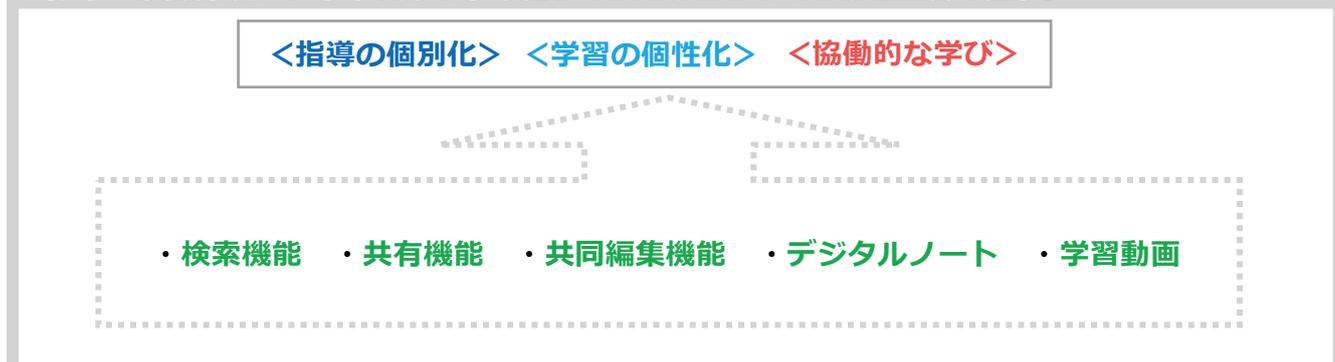
視点 2 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

各教科等の学習活動において、地域・学校や児童・生徒の実情を踏まえ、ICTを活用し、新たな教材（学習者用デジタル教科書、学習動画、ドリル教材、電子書籍、STEAM教育向けのコンテンツ等）を使用するとともに児童・生徒が共同で作成・編集等を行う活動や、多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動等ができるようにした。なお、指導に当たっては、必要に応じて様々な紙の教材等も使用することにより、児童・生徒の多様性に対応するようにした。



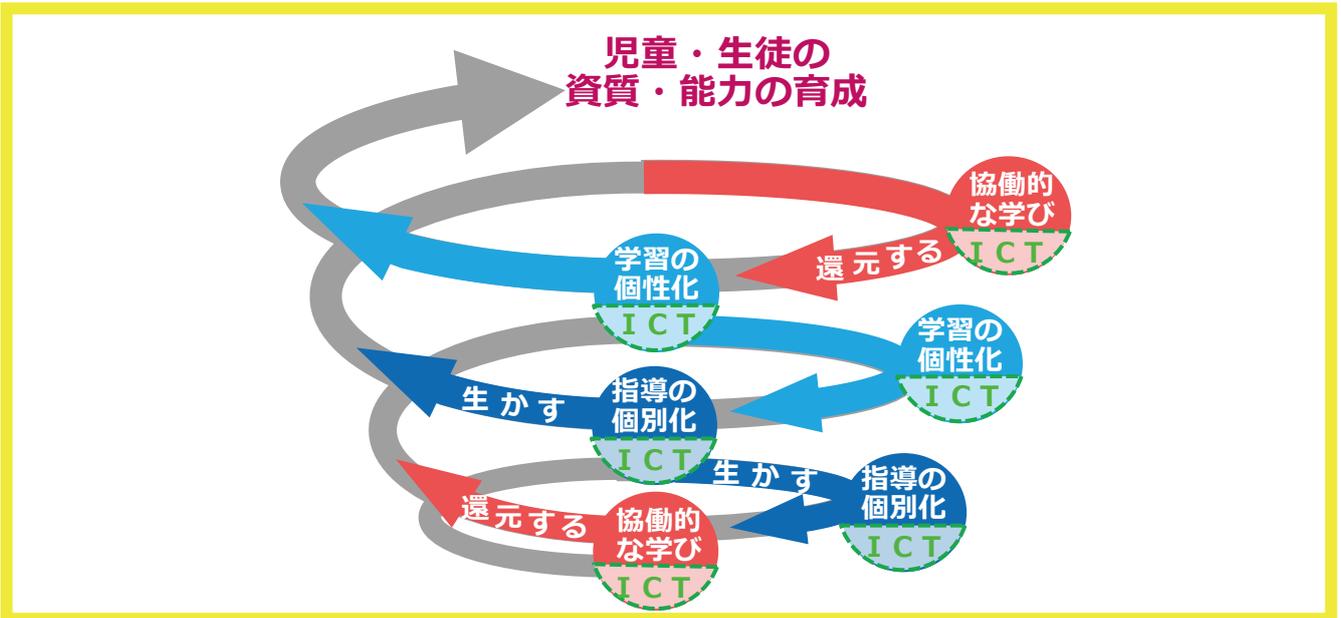
例えば、小学校第3学年社会「わたしたちの暮らしとお店の仕事」においては、調べる手段としてインターネットの検索機能や学習動画等から調べる手段を選択できるようにするとともに、実態に合わせて図書資料等、紙の教材も活用できるようにした。また、共有機能を使ってデジタルノートに書き込んだ各自の画面を共有し、友達の意見を参考に考えられるようにするとともに、共同編集機能を使って意見交換することで、販売の仕事と消費者の願いを関連付けてよりよい考えを生み出せるようにした。

【例】 <実践事例 2> 小学校第3学年社会「わたしたちの暮らしとお店の仕事」



**視点3** 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた学習過程の充実

単元（題材）の学習過程において、「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に位置付け、各教科等の学習過程の充実を図ることにした。

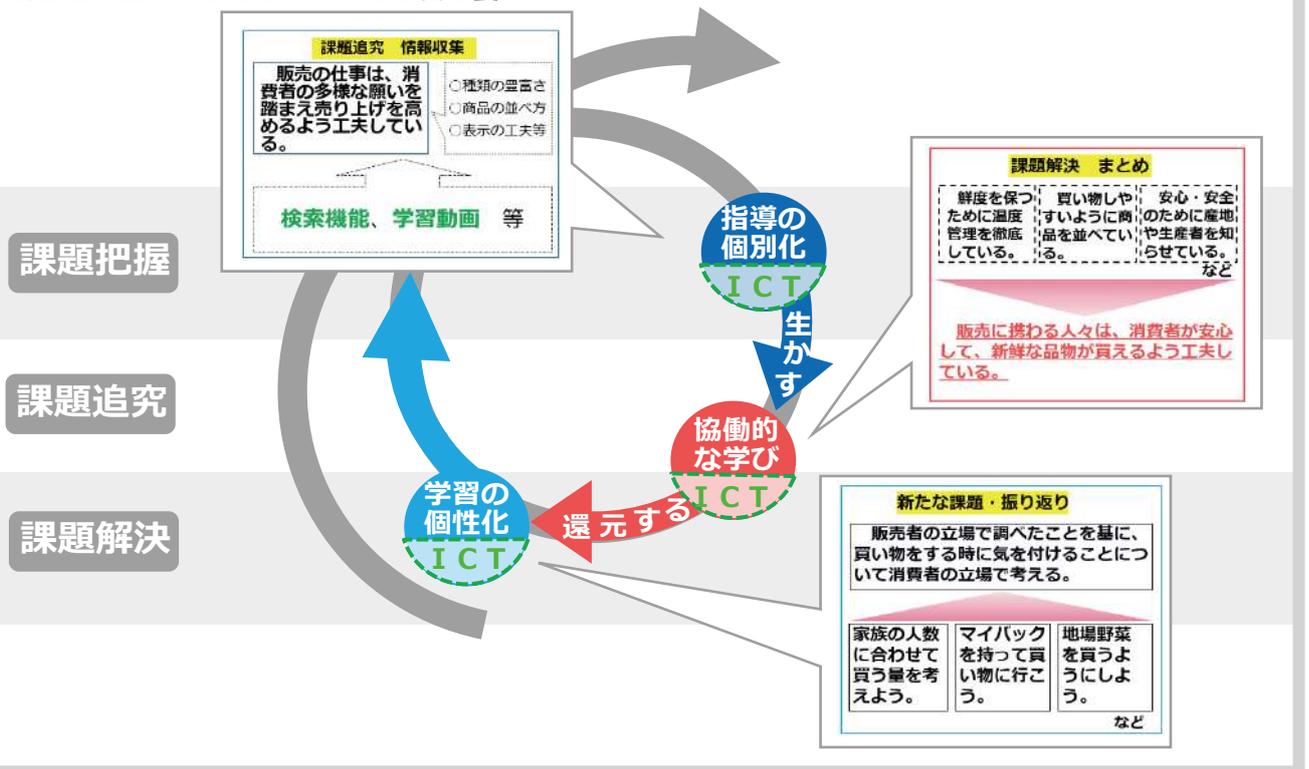


例えば、小学校第3学年社会「わたしたちの暮らしとお店の仕事」では、指導の個別化を「課題追究・情報収集」、学習の個性化を「新たな課題・振り返り」、協働的な学びを「課題解決・まとめ」の学習過程にそれぞれ位置付けた。指導の個別化において調べたことを児童同士の学び合いに生かすとともに、協働的な学びにおいてよりよく考えまとめたことを、新たな課題の解決に還元し、学習を深め、広げることにした。

**【例】 <実践事例2> 小学校第3学年社会「わたしたちの暮らしとお店の仕事」**

**<単元の目標>**

販売の仕事について、消費者の願い、販売の仕方などに着目して、見学・調査したり各種資料で調べたりして、白地図などにまとめ、販売の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現することを通して、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に問題解決しようとしていたり、学習したことを社会生活に生かそうとしていたりする態度を養う。



視点4 個別最適な学びと協働的な学びの取組の評価

各教科等の目標に準拠した評価を行うとともに、個別最適な学びと協働的な学びについて振り返り、教師の授業観察や児童・生徒のワークシート等による評価と単元（題材）前後の児童・生徒アンケートによる評価を合わせて行うことにした。単元の目標を評価することは、視点1から視点3までを踏まえて設計した単元（題材）の授業を評価することにもなる。

なお、児童・生徒アンケートの項目については、(1)から(3)までを単元（題材）で育成を目指す資質・能力について、(4)を指導の個別化について、(5)を学習の個性化について、(6)を協働的な学びについてとした。

児童・生徒アンケートの質問項目	
(1)	教科等の単元の目標「知識及び技能」に関する質問
(2)	教科等の単元の目標「思考力、判断力、表現力等」に関する質問
(3)	教科等の単元の目標「学びに向かう力、人間性等」に関する質問
(4)	<指導の個別化>に関する質問
(5)	<学習の個性化>に関する質問
(6)	<協働的な学び>に関する質問

例えば、小学校第3学年社会「わたしたちの暮らしとお店の仕事」の児童アンケートにおいては、<指導の個別化>に関する質問項目として、「店で働く人の仕事について、図書資料やインターネットの検索機能などから自分に合った方法を選んで調べ、理解することができる。」、<学習の個性化>に関する質問項目として、「自分で設定した課題について販売者と消費者の両面から考え、ものの見方を深めたり広げたりすることができる。」、<協働的な学び>に関する質問項目として、「調べたことを友達と交流し、店で働く人々の工夫とお客さんの願いを結び付けてよりよい考えを生み出すことができる。」を設定した。

【例】<実践事例2> 小学校第3学年社会「わたしたちの暮らしとお店の仕事」

項目	児童アンケート
(1) 知識及び技能	店で働く人々がお客さんの願いを踏まえ、売り上げを高めるためにどのような工夫や努力をしているか分かる。
(2) 思考力、判断力、表現力等	店で働く人々の仕事の様子から、工夫や努力について考え、友達に分かるように表すことができる。
(3) 学びに向かう力、人間性等	店で買い物をする時に、どのようなことに気を付けるかを考え、実際の生活の中で生かそうとする。
(4) <指導の個別化>	店で働く人の仕事について、図書資料やインターネットの検索機能などから自分に合った方法を選んで調べ、理解することができる。
(5) <学習の個性化>	自分で設定した課題について販売者と消費者の両面から考え、ものの見方を深めたり広げたりすることができる。
(6) <協働的な学び>	調べたことを友達と交流し、店で働く人々の工夫とお客さんの願いを結び付けてよりよい考えを生み出すことができる。

# 研究の内容

## ◆ 研究構想図

### 〈研究主題〉 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 ～ ICTを活用した新たな学習活動を通して～

- 目指す子供像**
- 学習の進め方を自ら調整できる子供
  - 興味・関心に応じ設定した課題の解決に向けて、学習を深め、広げる子供
  - 多様な他者とともに問題の発見や解決に挑む子供

#### 研究仮説

各教科等の特質に応じ、地域・学校や児童・生徒の実情を踏まえながら、ICTを活用した新たな教材や学習活動等も積極的に取り入れつつ、それにより実現される新しい学習活動について、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の充実に効果を上げているか確認しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていくことによって目指す子供像が達成できる。

#### 研究の4つの視点

##### 1 単元（題材）における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

各教科等の目標や内容等を踏まえ、単元（題材）における**<指導の個別化>** **<学習の個性化>** **<協働的な学び>**について具体化した上で学習活動の充実を図る。

##### <指導の個別化>

- ・一定の目標を達成
- ・個々の児童・生徒に応じた異なる方法

##### <学習の個性化>

- ・個々の興味・関心に応じた異なる目標
- ・学習を深め、広げる

##### <協働的な学び>

- ・異なる考え方を組み合わせ、よりよい学びを生み出す

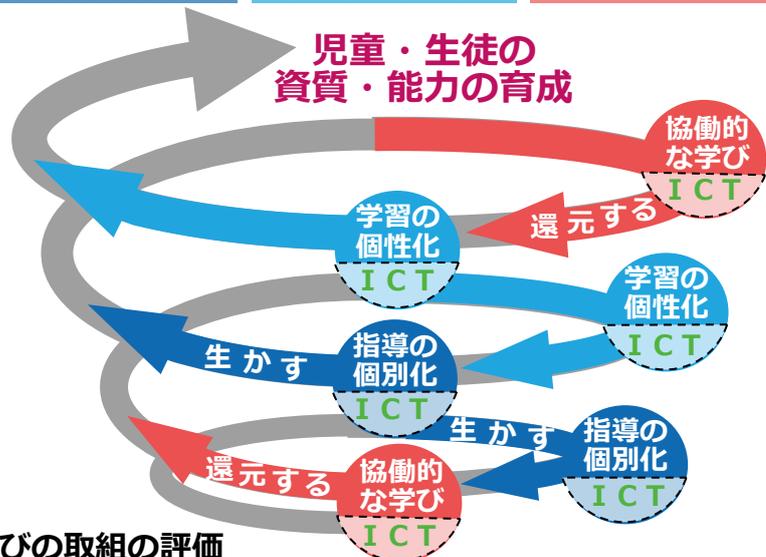
##### 2 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

児童・生徒の実情を踏まえ、ICTを活用し、**新たな教材**を使用するとともに**共同で作成・編集**等を行う活動や多様な意見を**共有しつつ合意形成**を図る活動等ができるようにする。

- ・ICTを活用した**新たな教材**（デジタル教科書、ドリル教材等）
- ・情報の探索、データの処理、**レポート作成、情報発信等**
- ・一人一人が自分のペースを大事に**共同で作成・編集等**
- ・多様な意見を**共有しつつ合意形成**を図る活動

##### 3 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた学習過程の充実

「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するなどして各教科等の学習過程の充実を図る。



##### 4 個別最適な学びと協働的な学びの取組の評価

各教科等の目標に準拠した評価を行うとともに、個別最適な学びと協働的な学びについて振り返り、教師の授業観察や児童・生徒のワークシート等による評価と単元（題材）前後の児童・生徒アンケートによる評価を合わせて行う。

# ◆ 実践事例の読み方

＜指導の個別化＞＜学習の個性化＞＜協働的な学び＞のどの事例かを表記

単元（題材）の目標の太字は、本時で育成を目指す資質・能力

二次元コードの読み取りまたはクリックで実践事例の解説動画が視聴可能

I C Tを活用した新たな学習活動をキヤッチコピーで表現

＜実践事例＞  
**学習の個性化** 小学校 第3学年 社会「わたしたちの暮らしとお店の仕事」

**単元（題材）の目標**  
 販売の仕事について、消費者の願い、販売の仕事などに着目して、見学・調査したり各種資料で調べたりして、白地図などにもとめて、販売の仕事の様子を捉え、それらの事に見られる工夫を考え、表現することを通して、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高める工夫がなされていることについて、検索機能、学習動画及び各種資料等を活用して調べ、**学習したことを社会生活に生かそうとしたりする態度を養う。**

**指導計画（全14時間扱い）**

課題把握	【第1・2時】 ○ 地域には様々な販売の仕事があり、消費者は多様な願いをもっていることを知る。 ○ 販売の仕事について、予想や学習計画を立て、解決の見通しをもつ。
課題追究情報収集考察・構想	【第3～8時】 ○ 販売の仕事、販売の仕事に携わる人々の工夫及び地域や外国との関わりについて、検索機能、学習動画及び各種資料等を調べ。 <b>＜指導の個別化＞</b>
課題解決	【第9～10時】 ○ 画面共有機能や共同編集機能を使って、各自が調べて考えたことを交流し、販売の仕事に携わる人々の工夫と消費者の願いを関連付けて考え、表現する。 <b>＜協働的な学び＞</b>
まとめ	【第11・12時】 ○ 販売の仕事で学習したことを基に、買い物をする時に気を付けることについて <b>消費者の立場で考える。</b> <b>＜学習の個性化＞</b>
新たな課題振り返り	【第13・14時】 ○ 調べて分かったことや考えたことを振り返り、販売の仕事についてまとめる。

**視点1 単元（題材）における個別最適な学びと協働的な学びの具体化**

個別最適な学び	協働的な学び
<b>＜指導の個別化＞</b> 販売の仕事が消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高める工夫がなされていることについて、検索機能、学習動画及び各種資料等を活用して調べる。	<b>＜協働的な学び＞</b> 各自が調べて考えたことを交流し、販売の仕事に携わる人々の工夫と消費者の願いを関連付けてよりよい考えを生み出す。

**視点2 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に活かしたICTの活用**

・デジタルノート ・学習動画 ・検索機能 ・共同編集機能 ・共有機能

**視点3 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた学習過程の充実**

**＜学習の個性化＞におけるICTを活用した新たな学習活動**

本時の目標（第11時/全14時間）  
 販売の仕事で学習したことを基に、買い物をする時に気を付けることについて消費者の立場で考え、これからの生活に生かそうとする態度を養う。

- 本時のめあてを確認し、見通しをもつ。
- 販売の仕事に携わる人々の工夫について、**販売者の立場で調べたこと**を共有する。
- 自分が買い物をする時に気を付けることについて**消費者の立場で考える。**
- 「自分が買い物をする時に気を付けること」について販売者と消費者の両面から考え**視野を広げる。**
- 本時の学習を振り返る。

**立場チェンジで視野の拡張**

- 販売者の立場で調べたことを基に、**消費者の立場に立ち、自分が買い物をする時に気を付けること**をデジタルノートに書き込む。
- 「自分が買い物をする時に気を付けること」について、お達の意見を参考に販売者と消費者の両面から考え**視野を広げる。**

共有機能  
 デジタルノートに書き込んだ各自の画面を共有し、視野を広げる。

共有機能  
 画面の人数に合わせて共有範囲を設定し、共有機能を使う。

共有機能  
 デジタルノートに書き込んだ各自の画面を共有し、視野を広げる。

共有機能  
 デジタルノートに書き込んだ各自の画面を共有し、視野を広げる。

共有機能  
 デジタルノートに書き込んだ各自の画面を共有し、視野を広げる。

**視点4 個別最適な学びと協働的な学びの取組の評価**

《児童アンケート結果》

事項	事前	事後
【教科書の単元の目標（学びに向かう力、人間性等）に関する価値観】 自分で買い物をする時に、どのようなことに気を付けるかを考え、実際の生活の中で生かそうとする。	48%	97%
【＜学習の個性化＞に関する質問】 自分で設定した課題について、販売者と消費者の両面から考え、もの見方を深めたり広げたりすることができる。	70%	91%

《考察》  
 販売の仕事等について、検索機能や学習動画及び各種資料等で調べ、デジタルノートにまとめたことを基に、買い物をする時に気を付けることを消費者の立場で考えることで、生活の中で生かそうとする態度を養うことができたと考え、その際、画面共有機能を使って互いのノートを参考にしたり、相互にコメントしたりしたことは、販売者と消費者の両面から視野を広げることが有効であったと考え。

## 【視点1】 単元（題材）における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

単元（題材）の目標や内容等を踏まえ、単元（題材）における**＜指導の個別化＞** **＜学習の個性化＞** **＜協働的な学び＞**について具体化した上で学習活動の充実を図った。

## 【視点3】 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた学習過程の充実

単元（題材）の学習過程において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に位置付け、各教科等の学習過程の充実を図ることとした。

## 【視点2】 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

児童・生徒等の実情を踏まえ、ICTを活用し、**新たな教材**を使用するとともに**共同で作成・編集等**を行う活動や多様な意見を**共有しつつ合意形成**を図る活動等ができるようにした。

## 【視点4】 個別最適な学びと協働的な学びの取組の評価

各教科等の目標に準拠した評価と**児童・生徒アンケート**による「個別最適な学び」と「協働的な学び」についての**評価**を合わせて行った。  
 ※ グラフの割合は、肯定的な回答の割合である。

## 目指す子供像

- 学習の進め方を自ら調整できる子供
- 興味・関心に応じ設定した課題の解決に向けて、学習を深め、広げる子供
- 多様な他者とともに問題の発見や解決に挑む子供

学習の個性化

## 小学校 第4学年 国語 「一つの花－場面の様子をくらべて読み、感想を書こう－」



### 単元(題材)の目標

- (1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。
- (2) 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。
- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。
- (4) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

### 指導計画 (全7時間扱い)

構造と内容の把握	<p>【第1・2時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまでの物語の学習で学んだことを振り返り、全体で取り組む学習課題（全体課題）を設定し、学習の計画を立てる。</li> <li>○ 初発の感想を基に自分が決めた学習課題（個人課題）を設定する。 <span style="color: blue;">&lt;学習の個性化&gt;</span></li> <li>○ 物語の設定を確かめ、内容を捉える。</li> </ul>
精査・解釈	<p>【第3～5時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全体課題「最後の場面に『一つだけ』が出てこないのはなぜか」について、「特別な言葉」に着目したり、戦争中と戦争後の場面を比べたりして考える。 <span style="color: blue;">&lt;指導の個別化&gt;</span></li> <li>○ 全体課題の解決を生かし、一人一人が個人課題の解決に取り組む。 <span style="color: blue;">&lt;学習の個性化&gt;</span></li> </ul>
考えの形成	<p>【第6時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 詳しく読んで考えが変わったところを中心に感想や考えをまとめる。</li> </ul>
共有	<p>【第7時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個人の感想をグループごとに読み合い、互いの考え方や感じ方の違いやよさを見付ける。 <span style="color: red;">&lt;協働的な学び&gt;</span></li> <li>○ 学習を振り返るとともに、読書の幅を広げる。</li> </ul>

#### 視点1 単元(題材)における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

個別最適な学び	協働的な学び
<p style="text-align: center; color: #0056b3;">&lt;指導の個別化&gt;</p> <p>「特別な言葉」に着目したり、戦時中と戦後を比べたりするなど自分に合った方法で、登場人物の行動や気持ちなどについて、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像する。</p>	<p style="text-align: center; color: #e91e63;">&lt;協働的な学び&gt;</p> <p>文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることやよさを見付ける。</p>
<p style="text-align: center; color: #0056b3;">&lt;学習の個性化&gt;</p> <p>初発の感想を基に一人一人が個人課題を設定し、解決に取り組むことを通して、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像を広げ、自分なりの結論をまとめる。</p>	

#### 視点2 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

- ・指導者用デジタル教科書
- ・アンケート機能
- ・共有機能
- ・スライド機能
- ・共同編集機能
- ・コメント機能
- ・検索機能

#### 視点3 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた学習過程の充実

# <学習の個性化>におけるICTを活用した新たな学習活動

## 本時の目標（第5時／全7時間）

一人一人が異なる学習課題（個人課題）の解決を通して、登場人物の気持ちや性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。

- 1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。
- 2 自分の個人課題を確認する。
- 3 自分に合った方法で個人課題の解決に取り組む。
- 4 課題解決の取組状況を共有し、課題解決の参考にする。
- 5 課題解決を通して想像を広げ、結論を出す。
- 6 次時の見通しをもつ。

### 課題も読みも十人十色

- 初発の感想を基に一人一人が異なる学習課題（個人課題）を設定し、自分に合った方法で課題解決に取り組む。

#### スライド機能

個人課題をスライドで共有しながら、似た課題をもつ友達と話し合って解決したり、考えを参考にしたりして、解決に取り組む。



- 個人課題の解決のために、個人で調べたり、似た課題をもつ友達と話し合ったりする中で、具体的に想像を広げ、自分なりの結論をまとめる。



#### コメント機能

意見交換をして考えを深めたり、広げたりする。

#### 検索機能

表現に適した語句や戦争中・戦争後の時代の様子などを、インターネットや書籍を使い、詳しく調べる。

## 視点4 個別最適な学びと協働的な学びの取組の評価

### 《児童アンケート結果》

事前 ■ 事後 ■

(教科等の単元の目標「思考力、判断力、表現力等」に関する質問) 登場人物の気持ちの変化などについて、場面の様子を比べながら、具体的に想像することができる。	事前 <span style="color: blue;">■</span> 30% 事後 <span style="color: orange;">■</span> 83%
(<学習の個性化>に関する質問) 自分で設定した課題について、課題解決に取り組み、考えを深めたり広げたりすることができる。	事前 <span style="color: blue;">■</span> 23% 事後 <span style="color: orange;">■</span> 47%

### 《考察》

全体で詳しく読んで理解したことを基に個人課題の解決に取り組んだことによって、登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わり結び付けて具体的に想像しながら読むことへの意識が高まったと考える。また、個人課題を共有し、似た課題をもつ友達と話し合って解決したり、考えを参考にしたりするなど、自分に合った方法で課題解決に取り組んだことにより、考えを深めたり広げたりすることができたと考えられる。



## 単元(題材)の目標

販売の仕事について、消費者の願い、販売の仕方などに着目して、見学・調査したり各種資料で調べたりして、白地図などにまとめ、販売の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現することを通して、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に問題解決しようとしたり、**学習したことを社会生活に生かそうとしたりする態度を養う。**

## 指導計画 (全 14 時間扱い)

課題把握	<b>【第1・2時】</b> ○ 地域には様々な販売の仕事があり、消費者は多様な願いをもっていることを知る。 ○ 販売の仕事について、予想や学習計画を立て、解決の見通しをもつ。
課題追究 情報収集 考察・構想	<b>【第3～8時】</b> ○ 販売の仕方、販売の仕事に携わる人々の工夫及び他地域や外国との関わりについて、検索機能、学習動画及び各種資料等で調べる。 <span style="float: right;">&lt;指導の個別化&gt;</span>
課題解決 まとめ	<b>【第9・10時】</b> ○ 画面共有機能や共同編集機能を使って、各自が調べて考えたことを交流し、販売の仕事に携わる人々の工夫と消費者の願いを関連付けて考え、表現する。 <span style="float: right;">&lt;協働的な学び&gt;</span>
新たな課題 振り返り	<b>【第11・12時】</b> ○ 販売の仕事で学習したことを基に、買い物をする時に気を付けることについて消費者の立場で考える。 <span style="float: right;">&lt;学習の個性化&gt;</span>
	<b>【第13・14時】</b> ○ 調べて分かったことや考えたことを振り返り、販売の仕事についてまとめる。

### 視点1 単元(題材)における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

個別最適な学び	協働的な学び
<p style="text-align: center; color: #0056b3;">&lt;指導の個別化&gt;</p> <p>販売の仕事が消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう工夫していることについて、検索機能、学習動画及び各種資料等を活用して調べる。</p>	<p style="text-align: center; color: #e91e63;">&lt;協働的な学び&gt;</p> <p>各自が調べて考えたことを交流し、販売の仕事に携わる人々の工夫と消費者の願いを関連付けてよりよい考えを生み出す。</p>
<p style="text-align: center; color: #0056b3;">&lt;学習の個性化&gt;</p> <p>買い物をする時に気を付けることについて各自が目標を設定し、販売者と消費者の両面から考えて視野を広げる。</p>	

### 視点2 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

- ・デジタルノート
- ・学習動画
- ・検索機能
- ・共同編集機能
- ・共有機能

### 視点3 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた学習過程の充実

# <学習の個性化>におけるICTを活用した新たな学習活動

## 本時の目標 (第11時/全14時間)

販売の仕事で学習したことを基に、買い物をする時に気を付けることについて消費者の立場で考え、これからの生活に生かそうとする態度を養う。

- 1 本時のめあてを確認し、見通しをもつ。
- 2 販売の仕事に携わる人々の工夫について、**販売者の立場**で調べたことを共有する。
- 3 自分が買い物をする時に気を付けることについて**消費者の立場**で考える。
- 4 「**自分が買い物をする時に気を付けること**」について販売者と消費者の**両面から考えて視野を広げる**。
- 5 本時の学習を振り返る。

## 立場チェンジで視野の拡張

- 販売者の立場で調べたことを基に、**消費者の立場に立ち**、自分が買い物をする時に気を付けることをデジタルノートに書き込む。

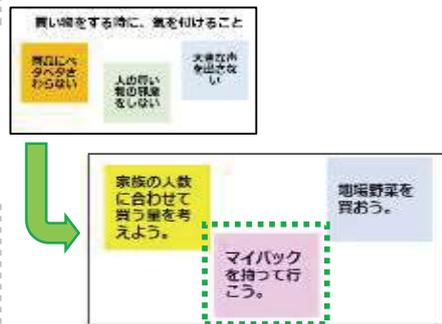


- 「**自分が買い物をする時に気を付けること**」について、友達の意見を参考に販売者と消費者の**両面から考えて視野を広げる**。



### 共有機能

デジタルノートに書き込んだ各自の画面を共有し、視野を広げる。



## 視点4 個別最適な学びと協働的な学びの取組の評価

### 《児童アンケート結果》

事前  事後

(教科等の単元の目標「 <b>学びに向かう力、人間性等</b> 」に関する質問) 店で買い物をする時に、どのようなことに気を付けるかを考え、実際の生活の中で生かそうとする。	48%	97%
( <b>&lt;学習の個性化&gt;</b> に関する質問) 自分で設定した課題について、販売者と消費者の両面から考え、もの見方を深めたり広げたりすることができる。	70%	91%

### 《考察》

販売の仕事等について、検索機能や学習動画及び各種資料等で調べ、デジタルノートにまとめたことを基に、買い物をする時に気を付けることを消費者の立場で考えることで、生活の中で生かそうとする態度を養うことができたと思う。その際、画面共有機能を使って互いのノートを参考にしたり、相互にコメントしたりしたことは、販売者と消費者の両面から視野を広げることに有効であったと考える。

指導の個別化

# 小学校 第6学年 算数 「つりあいのとれた形の分類や性質を調べよう」



## 単元(題材)の目標

- (1) 線対称、点対称の意味について理解し、図形の見方を深めることができる。
- (2) 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方を考察したり図形の性質を見いだしたりするとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直したり日常生活に生かしたりすることができる。
- (3) 均整のとれた美しさ、安定性など対称な図形の美しさに気づき、対称な図形を簡潔・明瞭・的確に描こうとしたり、身の回りから見付けようとしていたりしている。

## 指導計画 (全 13 時間扱い)

【第6～9時】と同じ  
<学習過程>

### 【第1～5時】

- 線対称な図形や対称の軸について理解する。
- 対応する辺、角、点の意味を理解し、対称な図形の性質を考える。 <協働的な学び>
- 対称な図形の性質を基に作図する活動を通して、図形の見方を深める。 <指導の個別化>

問題の設定、理解  
解決の計画  
解決の実行

### 【第6～9時】

- 点対称な図形や対称の中心について理解する。
- 対応する辺、角、点の意味を理解し、対称な図形の性質を考える。 <協働的な学び>
- 対称な図形の性質を基に作図する活動を通して、図形の見方を深める。 <指導の個別化>

新たな疑問や  
問いの気づき

### 【第10～13時】

- 正多角形や円などの既習の図形でも、対称な図形の性質が見いだせるか考える。
- 対称な図形を分類・整理する活動を通して、図形の見方を深める。 <学習の個性化>

### 視点1 単元(題材)における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

個別最適な学び		協働的な学び
<p>&lt;指導の個別化&gt;</p> <p>図形の見方を深めるために、自身の実態に応じた課題や解決の順番、作図の手段を選択し、課題解決に取り組む。</p>	<p>&lt;学習の個性化&gt;</p> <p>学習したことを基に身の回りの図形を分類・整理することを通して新たな課題を発見・解決し、図形に対する見方を深め、広げる。</p>	<p>&lt;協働的な学び&gt;</p> <p>図形の性質について互いの考えを共有し、よりよい考えを見いだす。</p>

### 視点2 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

- ・ 検索機能
- ・ 共有機能
- ・ コメント機能
- ・ 共同編集機能
- ・ 作図ソフト

### 視点3 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた学習過程の充実

# <指導の個別化>におけるICTを活用した新たな学習活動

## 本時の目標（第9時／全13時間）

点対称な図形の性質を基に作図する活動を通して、図形の見方を深める。

1 本時の目標と授業の流れを確認する。

2 自身の実態に応じた課題に取り組み、性質を用いた点対称な図形の作図の方法を確認する。

3 他の課題について、解決の順番や手段を各自で選択して取り組む。

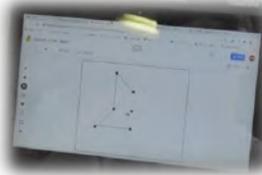
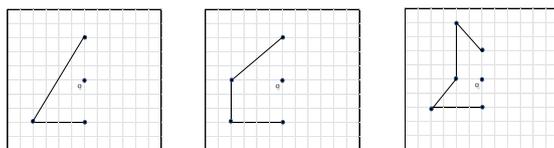
- ・ プリントで作図
- ・ 共同編集機能で作図
- ・ 作図ソフトで作図

4 同じ課題に取り組んだ児童同士で作図の過程を確認し合う。

5 本時を振り返り、友達の作図の仕方参考になったことや新たな疑問等を共有する。

### 問題も手段も回数もオリジナルチョイス

- 自分に合った課題（形の複雑さやマス目の有無）や解決の順番、作図の手段（プリント、共同編集機能、作図ソフト）を選択し、課題解決に取り組む。



#### 共同編集機能

児童は選択した課題及び進捗状況を共同編集機能内の座席表に入力する。

- 同じ課題に取り組んだ児童同士で、作図の結果を確認し合う。



## 視点4 個別最適な学びと協働的な学びの取組の評価

### 《児童アンケート結果》

事前 ■■■■ 事後 ■■■■

<b>（教科等の単元の目標「知識及び技能」に関する質問）</b> 対称な図形の性質を理解し、その性質を使って作図し、図形の見方を深めることができる。	事前 47% 事後 67%
<b>（&lt;指導の個別化&gt;に関する質問）</b> 自分に合った課題や作図の手段を選択して学習を進めることができる。	事前 60% 事後 87%

### 《考察》

知識及び技能に関する質問について肯定的な回答の割合が20ポイント上昇した。自分の学習状況に応じて課題や作図の手段を選択するという指導の個別化の実践が有効であることが分かった。なお、選択肢が多過ぎると、児童が適切に課題を選択することが難しかったり、教師が児童の学習状況を把握することが難しくなったりするため、児童の実態に応じて課題や手段を精選する必要がある。



## 単元(題材)の目標

物が水に溶ける量や様子に着目して、水の温度や量などの条件を制御しながら、物の溶け方の規則性を調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、**主に予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力**や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。

## 指導計画 (全 12 時間扱い)

自然の事物・事象 に対する気付き 問題の設定	【第1時】 ○ 食塩を水に溶かし、気付いたことを全体で共有して問題を設定する。
予想や仮説の 設定 検証計画の立案	【第2時】 ○ 水に食塩を溶かす前後で重さは変わるか、予想や仮説、検証計画を立てる。 ○ 教師演示や動画視聴、試しの操作によって、電子天秤の使い方を知る。<指導の個別化>
観察・実験の実施 考察	【第3時】 ○ 観察・実験を行い、水に食塩を溶かす前後で全体の重さは変わるか考察する。 <b>&lt;協働的な学び&gt;</b>
結論の導出	【第4時】 ○ 食塩以外の物を水に溶かしたときの全体の重さについて調べ、物が水に溶けても、水と物とを合わせた重さは変化しないことをまとめる。 <b>&lt;学習の個性化&gt;</b>
【第1~4時】と同じ <学習過程>	【第5~12時】 ○ 物が水に溶ける量には限度があることを知る。 ○ 物が水に溶ける量は、水の温度や量、溶ける物によって違うことを知る。また、この性質を利用して、溶けている物を取り出すことができることを知る。

### 視点1 単元(題材)における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

個別最適な学び	協働的な学び
<b>&lt;指導の個別化&gt;</b> 教師演示や動画視聴、試しの操作などによって、観察・実験に関する技能(薬品や器具の扱い方、濾過、計量の行い方)を身に付ける。	<b>&lt;協働的な学び&gt;</b> 互いの検証方法によって得られた複数の結果を基に、よりよく考察する。
<b>&lt;学習の個性化&gt;</b> 食塩以外の物(溶質)を自分で設定し、物が水に溶けても、水と物とを合わせた重さは変化しないことについて深め、広げる。	

### 視点2 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

- ・ 画像提示機能
- ・ カメラ機能
- ・ 共有機能
- ・ プレゼンテーション機能

### 視点3 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた学習過程の充実

# <協働的な学び>におけるICTを活用した新たな学習活動

## 本時の目標 (第3時/全12時間)

自分の立案した検証方法に基づいて観察・実験を行い、水に食塩を溶かす前後で全体の重さは変わるか、複数の結果を基に考察することができる。

1 前時に立案した自分の検証計画について、安全への配慮を確認する。

2 **自分の検証計画**に基づいて観察・実験を行い、結果を画像や映像で記録する。

3 自分の観察・実験の結果を基に考察する。

4 異なる検証計画によって得られた**複数の結果**を基に考察する。

5 記録した画像や映像を必要に応じて用いて、予想や方法を振り返って再検討する。

### オリジナル実験 複数結果からの考察

- 前時に立案した**自分の検証計画**に基づき、水に食塩を溶かす前後で全体の重さは変わるか、観察・実験を行う。



#### カメラ機能

考察における情報交換や説明の手段として、自分の観察・実験の結果を画像や映像で記録しておく。



- 異なる検証計画によって得られた**複数の結果**を基に、水に食塩を溶かす前後で全体の重さは変わるか、**より妥当な考えをつくりだす**。



## 視点4 個別最適な学びと協働的な学びの取組の評価

### 《児童アンケート結果》

事前 ■■■■ 事後 ■■■■

質問内容	事前 (%)	事後 (%)
(教科等の単元の目標「思考力、判断力、表現力等」に関する質問) 予想や仮説を基に解決の方法を発想する力や妥当な考えをつくりだす力を身に付けている。	42%	75%
(<協働的な学び>に関する質問) 複数の結果を基に、よりよく考察することができる。	75%	75%

### 《考察》

これまで、学級全体の意見交換によって精査された検証計画で観察・実験を行ってきた。今回は、児童が立案したそれぞれの検証計画で観察・実験を行い、異なる検証計画から得られた複数の結果を基に、よりよく考察することを試みた。協働的な学びに関する質問に変化は見られなかったものの、思考力、判断力、表現力等に関する質問について肯定的な回答の割合が33ポイント上昇したことは、本実践の成果であると考えられる。



### 単元(題材)の目標

- (1) コマ撮りアニメーションをつくる活動を通して、静止している物体を動いているように見せる動画の特徴を理解する。活動に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具についての経験や技能を総合的に生かしたり、方法を組み合わせたりするなどして、活動を工夫してつくる。
- (2) 静止している物体を動いているように見せる動画の特徴を基に、自分のイメージをもち、造形的な活動を思い付き、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのような活動をするか考えるとともに、自分や友達の作品の造形的なよさや面白さ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。
- (3) 静止している物体を動いているように見せる動画の特徴を基にする活動に主体的に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする。

### 指導計画 (全4時間扱い)

<p>学習のめあてをもつ 表したいことを見付ける</p>	<p>【第1時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 参考動画、実際に試す、人に聞くなどから自分に合った方法でコマ撮りアニメーションの作成方法及び特徴を捉えるとともに、表したいイメージをもつ。 <b>&lt;指導の個別化&gt;</b></li> </ul>
<p>どのように表すか考える 表し方を工夫して表す</p>	<p>【第2時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分のイメージをもちながら、材料の特徴や構成の面白さ等を考え、どのように表すか考え、コマ撮りアニメーションをつくる。</li> <li>○ 互いの作品を見たり意見交換したりして、造形的なよさや動きの面白さ、表現の意図や特徴、表し方の変化等についてよりよい表し方に生かす。 <b>&lt;協働的な学び&gt;</b></li> </ul>
<p>さらに工夫して表す</p>	<p>【第3時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ コマ撮りアニメーションの動きの工夫について、各自が目標を設定し、その特徴や構成の面白さ等を考え、自分のイメージを深め、さらに工夫して表す。 <b>&lt;学習の個性化&gt;</b></li> </ul>
<p>鑑賞する振り返る</p>	<p>【第4時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 作品カードに自分の作品のよさや面白さ、動きの工夫などについて記入するとともに、互いの作品を鑑賞し、感じ取ったり考えたりしたことを話し合う。</li> </ul>

#### 視点1 単元(題材)における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

個別最適な学び	協働的な学び
<p><b>&lt;指導の個別化&gt;</b></p> <p>コマ撮りアニメーションを使った動画の作成方法及び特徴について、参考動画、実際に試す、人に聞くなどから自分に合った方法で捉える。</p>	<p><b>&lt;学習の個性化&gt;</b></p> <p>動きの工夫について各自が目標を設定し、その特徴や構成の面白さ等を考え、自分のイメージを深め、さらに工夫した表現につなげる。</p>
<p><b>&lt;協働的な学び&gt;</b></p> <p>互いの作品を見たり意見交換したりすることで、造形的なよさや面白さ、表現の意図等について、よりよい表し方に生かす。</p>	

#### 視点2 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

- ・ 参考動画
- ・ 検索機能
- ・ 共有機能
- ・ 共同編集機能
- ・ カメラ機能

#### 視点3 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた学習過程の充実

# <学習の個性化>におけるICTを活用した新たな学習活動

## 本時の目標（第3時/全4時間）

コマ撮りアニメーションの特徴や構成の面白さなど、各自が目標を設定し、イメージを深めて、さらに工夫して表す。

1 本時のめあてを確認し、見直しをもつ。

2 動きや構成の面白さ等について、各自が目標を設定する。

3 友達と交流し、自分のイメージを深め、さらに工夫したいことの解決方法を見いだす。

4 深めた自分のイメージや解決方法を基に、動きや構成の表現をさらに工夫して表す。

5 本時の学習を振り返る。

### アイデアは、シェアして膨らませて

- 友達のアドバイスや作品を参考に、自分のイメージを深めて、さらに工夫したいことの解決方法を見いだす。



#### 共有機能

友達のアドバイスを確認したり、友達の作品を視聴したりして、さらに工夫したいことの解決方法を見いだすための参考とする。

- 自分のイメージに合った素材を選んだり、アニメーションを再構成したりして、各自が動きや構成の表し方をさらに工夫して表す。



## 視点4 個別最適な学びと協働的な学びの取組の評価

### 《児童アンケート結果》

事前 ■■■■ 事後 ■■■■

#### （教科等の題材の目標「思考力、判断力、表現力等」に関する質問）

材料を動かしながら感じたことや見たことから表したいことを見つけて、自分のイメージをもち、表すことができる。



#### （<学習の個性化>に関する質問）

自分で目標を設定し、タブレットPC等を使って、どのような作品にするかイメージを深めたり広げたりして工夫することができる。



### 《考察》

友達のアドバイスを確認したり友達の作品を視聴したりしながら作品づくりをしたことで、各自のイメージを深めることができたと考える。また、本実践の以前においては、各自で目標を設定することに肯定的な回答の割合は20%であったが、事後には23ポイント上昇した。これは、さらに工夫して表現するという本時の目標に対して、動きや構成のどこを工夫したいのか、各自で明確な目標を設定した成果であると考えられる。



## 単元(題材)の目標

- (1) 表現の行い方を理解するとともに、表したい感じを表現することができるようにする。
- (2) 自己やグループの課題の解決に向けて、表したい内容や発表の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- (3) 表現に積極的に取り組み、互いのよさを認め合い助け合って踊ったり、場の安全に気を配ったりすることができるようにする。

## 指導計画(全6時間扱い)

<b>易しい運動から取り組む</b>	<b>【第1時】</b> ○ 仲間と一緒に表現運動に取り組んだり、学習動画等を参考にしたりして、表現運動の行い方を知るとともに表現運動の楽しさを味わう。 <span style="float: right;">&lt;指導の個別化&gt;</span>
<b>自己の目標をもつ 目標に向けた運動課題とその解決方法を知る</b>	<b>【第2～4時】</b> ○ 自己の目標をもち、自己の課題を見付け課題解決の方法を知る。 ○ メリハリのあるひと流れの動きで踊る。 ○ 表したい感じやイメージを強調して踊り、他のグループと踊りを見せ合って、仲間のよいところ等を伝え合う。 <span style="float: right;">&lt;協働的な学び&gt;</span>
<b>グループで課題を選び活動を決め、運動に取り組む 成果を確認し、振り返る</b>	<b>【第5・6時】</b> ○ 個々のグループで課題を設定し、ひとまとまりの動きにして踊る。 <span style="float: right;">&lt;学習の個性化&gt;</span> ○ 互いのグループの表現を確認する。

### 視点1 単元(題材)における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

個別最適な学び	協働的な学び
<b style="color: #0056b3;">&lt;指導の個別化&gt;</b> 教師や仲間の動き、学習動画等を参考に、表現運動の行い方を理解する。	<b style="color: #e91e63;">&lt;協働的な学び&gt;</b> 互いの動きや工夫を撮影、共有し、自分の動きや工夫をよりよいものにする。
<b style="color: #0056b3;">&lt;学習の個性化&gt;</b> 興味・関心を基に題材を選択し、互いに見せ合ってイメージを深めたり、表現の幅を広げたりする。	

### 視点2 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

<span style="color: #008000;">・ 共有機能</span>	<span style="color: #008000;">・ 共同編集機能</span>	<span style="color: #008000;">・ カメラ機能</span>
---	---	--

### 視点3 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた学習過程の充実

# <協働的な学び>におけるICTを活用した新たな学習活動

## 本時の目標（第4時／全6時間）

表したい感じやイメージをより強調させるための動きの工夫について、考えたことをグループで伝え合うことができる。

- 1 本時の目標と授業の流れを確認し、心と体をほぐす。
- 2 前時までに取り組んだ動きを確認する。
- 3 グループで一つのイメージを選択し、ひと流れの動きにして踊るとともに、その様子を撮影する。
- 4 互いの動きを**見せ合うとともに、撮影した動画を共有して、よいところや改善点を伝え合う。**
- 5 仲間のアドバイスを、グループの動きや工夫に反映する。
- 6 本時の学習を振り返る。

### 動画チェックで動きのアップデート

- 前時までの取り組んだ動きを撮影した動画をクラウドの共有フォルダに保存しておき、振り返って、本時の学習に生かす。

#### 共有機能

撮影した動画や学習動画を共有のフォルダに保存しておき、いつでも見て振り返ることができるようにする。



#### 動きを撮影 ▶ チェック

- **撮影した動きを共有**し、より強調させるための工夫を話し合ったり、他のグループのよいところやアドバイスを伝え合う。

#### カメラ機能

撮影した動画をグループで見合い、強調したい部分が強調できているか確認する。



#### ▶ 共有 ▶ 動きや工夫に反映

## 視点4 個別最適な学びと協働的な学びの取組の評価

### 《児童アンケート結果》

事前  事後

<b>（教科等の単元の目標「思考力、判断力、表現力等」に関する質問）</b> 表したい感じやイメージをもって動きを工夫する方法を考えるとともに、自分の考えを仲間に伝えることができる。	事前 <span style="display: inline-block; width: 100px; height: 10px; background-color: #0056b3;"></span> <b>53%</b> 事後 <span style="display: inline-block; width: 150px; height: 10px; background-color: #e69d00;"></span> <b>87%</b>
<b>（&lt;協働的な学び&gt;に関する質問）</b> 撮影した動画等を基にして仲間と動きの工夫を考えたり、よりよい考えに気付いたりすることができる。	事前 <span style="display: inline-block; width: 100px; height: 10px; background-color: #0056b3;"></span> <b>80%</b> 事後 <span style="display: inline-block; width: 150px; height: 10px; background-color: #e69d00;"></span> <b>83%</b>

### 《考察》

グループの動きを撮影し、確認することで、表したい感じやイメージ通りに工夫できたかについて、客観的に捉え振り返ることができた。また、実際の動きを見て話し合ったり、発表の動画を共有したりしたことにより、動きや工夫のよいところや改善点を具体的に伝え合うことができた。また、思考力、判断力、表現力等に関する質問について肯定的な回答の割合が34ポイント上昇したことから、撮影した動画を基に動きを確認・共有し、グループの動きや工夫に反映した協働的な学びの実践は有効であったと考えられる。



## 単元(題材)の目標

いじめを未然に防いだり、いじめに発展しそうな場面があったら自分たちで解決したりしようとする実践意欲を高める。

## 指導計画 (全3時間扱い)

【第2時】と同じ  
<学習過程>

問題意識をもつ

自分の考えをもつ

他者の考えを知る  
他者と話し合う

自己の生き方について  
の考えを深める

### 【第1時】教材名「言わなきゃ」(A 善悪の判断)

- 正しいと思うことを行うことについて、自分の考えをもつ。
- 教材の主人公「わたし」はどのようにして「言わなきゃ」と思っていることを言い出せなかったのか考えを交流する。
- これまでの自分の生活やこれからの自分の生き方について考えを深めたり広げたりする。

### 【第2時】教材名「ひとりぼっちのYちゃん」(C 公正、公平、社会正義)

- 「誰にでも同じように接することのよさ」について、これまでの経験や知ったり聞いたりしたことを基に自分の考えをもつ。 **<指導の個別化>**
- 教材の主人公がしたこと話し合いたい場面を選び、考えを交流し、様々な視点から考える。 **<協動的な学び>**
- 「誰に対しても同じように接することのよさ」について、これまでの経験や友達との交流、教師への相談など、自分に合った方法で考えをまとめる。 **<指導の個別化>**
- これまでの自分の生活やこれからの自分の生き方について考えを深めたり広げたりする。 **<学習の個性化>**

### 【第3時】「学級会での出来事」(B 相互理解、寛容)

- 「みんなで話し合いをするときは」の続きについて、これまでの経験や、知ったり聞いたりしたことを基に自分の考えをもつ。
- 教材中で「問題だ」と思う人物の行動を選び、考えを交流し、様々な視点から考える。
- これまでの自分の生活やこれからの自分の生き方について考えを深めたり広げたりする。(3回の学習を通してのまとめをする)

【第2時】と同じ  
<学習過程>

### 視点1 単元(題材)における個別最適な学びと協動的な学びの具体化

#### 個別最適な学び

##### <指導の個別化>

テーマに対して、これまでの経験、知ったり聞いたりしたこと、友達や教師への相談など、自分に合った方法で自分の考えをまとめる。

##### <学習の個性化>

これまでの自分の生活やこれからの自分の生き方について、考えや願いなどを深めたり、広げたりする。

#### 協動的な学び

##### <協動的な学び>

話し合いたい場面を選び、様々な視点から考えを交流し、他者の考えに共感したり、考えを変化させたり、考えに確信をもったりして、よりよい考えに気付く。

### 視点2 個別最適な学びと協動的な学びの学習活動に応じたICTの活用

- ・ アンケート機能
- ・ メッセージ機能
- ・ 共有機能

### 視点3 個別最適な学びと協動的な学びを一体的に位置付けた学習過程の充実

# <協働的な学び>におけるICTを活用した新たな学習活動

## 本時の目標（第2時／全3時間）

自分の行動を反省する「わたし」の姿を通して、誰に対しても公平に接することの大切さについて考え、誰に対しても分け隔てなく接しようとする実践意欲を高める。

- 誰にでも同じように接することのよさについて自分の考えをもつ。
- 教材「ひとりぼっちのYちゃん」の話を聞く。
- 話し合いたい場面を選択し、様々な視点から考える。**
- 「何が問題か」「どうしていたらよかったか」について、**同じ場面を選択した児童同士で考えを共有し、共通点や相違点を見付ける。**
- 全体で共有後**、「わたし」の弱さについて考える。
- 誰に対しても同じように接することのよさについて、学習したことや自分自身を振り返りながら自分の考えをまとめる。
- これまでの自分の生活やこれからの自分の生き方について考えながら学習感想を書く。

### 興味ある場面選択で話合いの質アップ

- **話し合いたい場面を選び**、自分との関わりで理解を深め、交流する。

#### ① 場面を選択



#### アンケート機能

「わたし」の行動を複数提示し、アンケート機能を使って、話し合いたい場面を選択する。児童の傾向を即時把握しやすい。

- **同じ場面を選択した児童同士で考えを共有する。**

#### ② 考えを共有（同質）

#### メッセージ機能

同じ場面を選択した児童同士で考えを共有し、メッセージを互いに送り合う。



- **全体で様々な視点から交流し、自己の生き方についての考えを深める。**

#### ③ 考えを共有（全体）



## 視点4 個別最適な学びと協働的な学びの取組の評価

### 《児童アンケート結果》

事前 ■ 事後 ■

<b>（「自分自身との関わりの中での道徳的価値の理解」に関する質問）</b> 登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりにイメージして考えることができる。	事前 <span style="color: blue;">■</span> 89% 事後 <span style="color: orange;">■</span> 93%
<b>（&lt;協働的な学び&gt;に関する質問）</b> 自分や友達の考えについて、タブレット PC などを使って比べたり結び付けたりして、よりよい考えに気付くことができる。	事前 <span style="color: blue;">■</span> 96% 事後 <span style="color: orange;">■</span> 89%

### 《考察》

話し合いたい場面を選択し、考えを交流したことにより、自分との関わりで道徳的価値の理解を深めることができた。協働的な学びに関する質問について肯定的な回答の割合が7ポイント減少したことは、タブレットPC上で場面選択をし、考えを交流することが本実践で初めてだったためだと考える。これまでの道徳の授業で大切にしてきた教師と児童、児童同士の直接の対話とICTの特性を生かすことで、よりよい考えに気付くことができると考える。



## 単元(題材)の目標

地域がもっと賑わうように、地域の自然や特産品、活性化に取り組む人々の取組を調べたり、地域のよさを伝える活動を行ったりすることを通して、地域の魅力や活性化に取り組む人々の思いや願いに気づき、持続可能な社会の在り方について考え、まちづくりに積極的に関わることができるようにする。

## 指導計画

課題の設定 情報の収集 整理・分析 まとめ・表現	<b>第1小単元「狛江を楽しもうプロジェクト」(全25時間扱い)</b> <b>【第1～5時】</b> ○ 知っていることを出し合い、狛江市への興味・関心を深め広げる。 ○ 狛江市の興味・関心を基に、自分の調べたいテーマを決める。	<学習の個性化>
	<b>【第6～17時】</b> ○ 「狛江市の魅力」など、自分のテーマについて調べる計画を立てる。 ○ 自分の調べたいテーマについて、一人1台端末等で情報を収集する。 ○ 自分の調べたいテーマについて、取材やフィールドワーク等で情報を収集する。	<指導の個別化>
	<b>【第18～22時】</b> ○ 収集した情報をポスターやプレゼンテーションアプリ等に整理する。	
	<b>【第23～25時】</b> ○ 整理・分析したことを基に、狛江市の魅力等について話し合う。 ○ 狛江市の魅力と思いや願いを結び付け、今後のよりよい活動を考える。	<協働的な学び>
[第1～25時]と同じ <学習過程>	<b>第2小単元「狛江の○○を喜ばせようプロジェクト」(全25時間扱い)</b> <b>【第26～50時】</b> ○ 新たに設定した課題ごとにグループを作り、活動計画を立て、情報の収集、整理・分析を行う。 ○ 課題を解決するための活動を実践し、振り返る。	

### 視点1 単元(題材)における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

個別最適な学び	協働的な学び
<指導の個別化> 狛江市の魅力等、自分の調べたいテーマについて、検索機能や地図アプリ、取材やフィールドワークに等で情報を収集する。	<協働的な学び> 狛江市の魅力と活動を通して知った他の人(自分や友達、地域の人など)の思いや願いを結び付け、今後のよりよい活動を考える。

### 視点2 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

・デジタル地図(2D) ・テキストマイニング ・検索機能 ・スライド機能 ・アンケート機能

### 視点3 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた学習過程の充実

# <学習の個性化>におけるICTを活用した新たな学習活動

## 本時の目標（第3時／全25時間）

これまでの学習や生活経験、友達の意見や話し合ったことなどを基に、狛江市について、自分の興味・関心を深め広げることができるようにする。

- 前時の学習を振り返り、本小単元のコンセプトを確認する。
- 狛江市について知っていることを出し合い、**自分の興味・関心を広げる**。
  - アンケート機能に回答する。
  - 班で話し合い、円型段ボールに付箋を貼る。
  - 自由に移動して話し合ったり、気付いたことを付箋に書いて他班の円型段ボールに貼ったりする。
  - 友達の意見や話し合ったことを踏まえて、改めてアンケート機能に回答する。
- 自分の課題(狛江市でやってみたいことなど)について話し合い、次時への見通しをもつ。

### 見える化!! 関心ビフォーアフター

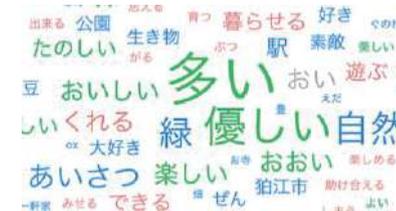
- 狛江市について知っていることをアンケート機能に回答する。



#### アンケート機能

これまでの学習や生活経験を基に、狛江市について知っていること(狛江市のいいところ、関心のあるところ)を回答する。

- アンケートの結果をテキストマイニングで表示する。



#### テキストマイニング

アンケートの結果を表示し、回答内容についてのクラス全体の傾向を共有する。

- 表示したテキストマイニングや友達の意見、話し合ったことを基に、**自分の興味・関心を深め広げる**。



- 改めてアンケート機能に回答し、**テキストマイニングを見て、クラス全体の興味・関心の深まり、広がりを知る**。

## 視点4 個別最適な学びと協働的な学びの取組の評価

### 《児童アンケート結果》

事前  事後

<b>(教科等の単元の目標「学びに向かう力、人間性等」に関する質問)</b> 自分のできること、やりたいことを実行するなどして、まちづくりにすすんで関わろうとしている。	事前 <span style="display:inline-block; width:100%; height:10px; background-color:blue;"></span> <b>90%</b> 事後 <span style="display:inline-block; width:97%; height:10px; background-color:orange;"></span> <b>97%</b>
<b>(&lt;学習の個性化&gt;に関する質問)</b> 友達の意見や話し合ったことなどを基に、自分の興味・関心を深め広げる。	事前 <span style="display:inline-block; width:100%; height:10px; background-color:blue;"></span> <b>97%</b> 事後 <span style="display:inline-block; width:100%; height:10px; background-color:orange;"></span> <b>97%</b>

### 《考察》

本実践では、これまでの学習や生活経験のみから課題を設定する従来の方法ではなく、班や友達と話し合う活動の前後において、クラス全体の傾向をテキストマイニングで共有し、自分の興味・関心を深め広げることを試みた。児童アンケートの結果に顕著な変化は見られなかったものの、学びに向かう力、人間性等に関する質問について肯定的な回答の割合が7ポイント上昇したことは、本実践の成果であると考えられる。



## 単元(題材)の目標

- (1) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全といった、自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解するとともに、そのために必要な知識や行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 自己の生活上の課題に気づき、多様な意見を基に、自ら解決方法を意思決定することができるようにする。
- (3) 自己の生活をよりよくするために、他者と協働して自己の生活上の課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、他者を尊重してよりよい人間関係を形成しようとしたりする態度を養う。

## 指導計画(全1時間扱い)

問題の発見・確認	<p><b>【事前】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日常の挨拶について自己の生活を振り返る。(アンケート回答)</li> </ul>
課題の把握 つかむ 原因の追求 さぐる 解決方法等の話し合い 見つける 個人目標の意思決定 決める	<p><b>【本時】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ すすんで挨拶することができる自分になるための解決方法を考える上で、自分の考えだけでなく、様々な立場の人からの助言を受け、それらの視点を基に解決方法を考える。 <span style="color: blue;">&lt;指導の個別化&gt;</span></li> <li>○ すすんで挨拶できていない現状をキーワード化し、その中から自分の原因に近いものを選択し、同じ原因を選択した児童同士の小グループで解決方法を話し合い、自分に合った解決方法を見付ける。 <span style="color: blue;">&lt;指導の個別化&gt;</span> <span style="color: red;">&lt;協働的な学び&gt;</span></li> <li>○ 様々な立場の人からの助言や小グループでの話し合いから得られた解決方法を生かし解決方法を意思決定する。 <span style="color: blue;">&lt;指導の個別化&gt;</span> <span style="color: blue;">&lt;学習の個性化&gt;</span></li> </ul>
実践・振り返り	<p><b>【事後】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の立てた目標や取組について振り返ったり、友達同士で取組を確認し合ったりする。 <span style="color: blue;">&lt;学習の個性化&gt;</span></li> </ul>

### 視点1 単元(題材)における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

個別最適な学び	協働的な学び
<p style="text-align: center; color: blue;">&lt;指導の個別化&gt;</p> <p>すすんで挨拶できる自分になるための解決方法を様々な視点を基に見付け、自分に合った方法で解決方法を意思決定する。</p>	<p style="text-align: center; color: red;">&lt;協働的な学び&gt;</p> <p>すすんで挨拶できない原因が同じ児童同士で解決方法を話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を見付ける。</p>
<p style="text-align: center; color: blue;">&lt;学習の個性化&gt;</p> <p>すすんで挨拶するために、「見つける」で挙げた視点を基にして自分なりの解決方法を実践し、振り返る。</p>	

### 視点2 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

- ・カメラ機能
- ・アンケート機能
- ・共同編集機能
- ・入力機能
- ・デジタルワークシート

### 視点3 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた学習過程の充実

# <指導の個別化>におけるICTを活用した新たな学習活動

## 本時の目標（第1時／全1時間）

挨拶することの大切さを理解しているものの、すすんで挨拶することが難しいという現状を知り、様々な解決方法を基に自分なりのすすんで挨拶するための解決方法を意思決定することができるようにする。

1 事前アンケートや異なる立場の人からの情報を基に、実態や現状を知り、気付いたことを話し合う。  
 <課題の把握【つかむ】>

2 挨拶の必要性は理解していても、すすんで挨拶することができない原因を検討し、キーワード化する。  
 <原因の追求【さぐる】>

3 教師等からの情報や小グループでの話し合いを基にすすんで挨拶するための解決方法を考える。  
 <解決方法等の話し合い【見つける】>

4 自己の課題を解決するために努力すべき具体的な解決方法(内容や方法など)を決める。  
 <個人目標の意思決定【決める】>

## 試行錯誤でベストな自己決定

- すすんで挨拶することが難しい個々の課題に対する助言の映像資料を基に小グループで話し合い、解決方法を見付ける。



### カメラ機能

生活指導主任や地域の方の助言をあらかじめ撮影した動画を使用する。重要なキーワードにはテロップを付けることで可視化する。

- 多様な解決方法を基に、自分に合った解決方法を意思決定する。
- 個人目標をデジタルノートにまとめる。

### 多様な入力機能

キーボード入力や音声入力を活用し、個人目標を作成する。音声入力は、教師との個別のやり取りを言語化し、作成する。



## 視点4 個別最適な学びと協働的な学びの取組の評価

### 《児童アンケート結果》

事前  事後

<b>(教科等の題材の目標「思考力、判断力、表現力等」に関する質問)</b> 友達の考えや友達と一緒に考えたアイデアを生かして、自分にできる目標を立てることができる。	事前 <span style="display: inline-block; width: 65%; height: 10px; background-color: #0056b3; vertical-align: middle;"></span> <b>65%</b> 事後 <span style="display: inline-block; width: 100%; height: 10px; background-color: #f4a460; vertical-align: middle;"></span> <b>100%</b>
<b>(&lt;指導の個別化&gt;に関する質問)</b> 自分にできる目標を立てるために、自分に合った方法で学習を進めることができる。	事前 <span style="display: inline-block; width: 60%; height: 10px; background-color: #0056b3; vertical-align: middle;"></span> <b>60%</b> 事後 <span style="display: inline-block; width: 100%; height: 10px; background-color: #f4a460; vertical-align: middle;"></span> <b>100%</b>

### 《考察》

挨拶に関する現状をアンケート結果や地域の方からの話を基に把握し、より自分事として課題を解決するための方法を考えることができた。また、動画のテロップや多様な入力機能、共有機能により、個に応じた指導を充実させることができた。さらに、デジタルワークシートにより、個人評価だけでなく、他者評価をタイムリーに行うことができ、児童の実践に対する意欲を高めることができたと思う。



### 単元(題材)の目標

- (1) 音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。
- (2) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。
- (3) 書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。
- (4) 言葉がもつ価値に気付くとともに、すすんで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

### 指導計画 (全6時間扱い)

構造と内容の把握	<p>【第1時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 漢文の特徴や訓読の仕方を知り、故事成語の特徴や使い方について理解する。</li> <li>○ 「矛盾」以外の故事成語の由来や意味を調べる。 <span style="float:right">&lt;指導の個別化&gt;</span></li> </ul>
内容の検討、記述、共有	<p>【第2時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「矛盾」と結び付く自分の体験談について起承転結で整理し、短い文章を書く。</li> <li>○ 小グループで体験談を読み合い、よい点や改善点を伝え合う。 <span style="float:right">&lt;指導の個別化&gt;</span></li> </ul>
題材の設定、構成の検討、考えの形成記述、推敲	<p>【第3～4時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の体験と結び付く故事成語の一つを選び、自分の体験談について起承転結で整理し、体験談を書く。 <span style="float:right">&lt;学習の個性化&gt;</span></li> </ul>
共有	<p>【第5時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループで故事成語の体験談を共有し、よい点や改善点について助言し合う。また、自分の文章のよい点や改善点を整理する。 <span style="float:right">&lt;協働的な学び&gt;</span></li> </ul>
推敲	<p>【第6時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時の助言を基に、自分の体験談の原稿を推敲する。 <span style="float:right">&lt;学習の個性化&gt;</span></li> </ul>

#### 視点1 単元(題材)における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

個別最適な学び	協働的な学び
<p>&lt;指導の個別化&gt;</p> <p>書籍、教科書、タブレットP C、副教材など、自ら選んだ方法で故事成語について調べたり、故事と現代の出来事を結び付けた体験談を書いたりする。</p>	<p>&lt;学習の個性化&gt;</p> <p>自分の体験と結び付く興味・関心をもった故事成語を決め、自分の体験や現代の出来事と結び付けながら、故事成語についての興味・関心を深め広げる。</p>
<p>&lt;協働的な学び&gt;</p> <p>互いの体験談と故事成語の結び付きについて、段落の役割や文章の構成などの観点で助言し合い、自分の文章のよい点や改善点を見いだす。</p>	

#### 視点2 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

- ・ 共有機能
- ・ スライド機能
- ・ 共同編集機能
- ・ カメラ機能
- ・ デジタルノート

#### 視点3 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた学習過程の充実

# <協働的な学び>におけるICTを活用した新たな学習活動

## 本時の目標（第5時／全6時間）

互いの体験談と故事成語の結び付きについて、段落の役割や文章の構成などの観点で助言し合い、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。

- 1 本時の目標を確認し、教師からの体験談を例に、学習の見通しをもつ。
- 2 グループで自分の体験談を発表した後に、選んだ故事成語を予想する。
- 3 故事成語が伝わったポイントを中心に、よい点、改善点を助言し合う。
- 4 グループで、よい点、改善点のアドバイスカードを共有する。（共有方法はプリント、端末を選択する。）
- 5 グループでの助言を基に、自分の体験談のよい点や改善点を整理する。

### 私の体験談、“矛盾”してないかな？

- グループで、よい点や改善点を助言し合う。



#### スライド機能

自分が選んだ故事成語と結び付く体験談を書き、起承転結の構成にしてグループ内で共有する。

- グループで、アドバイスカードを共有する。

#### 共有機能

友達が書いた体験談から選んだ故事成語を予想し、中心となる部分に注目し、よい点や改善点の具体的な助言を行う。



- グループでの助言を基に、よい点や改善点を整理する。



#### デジタルノート

アドバイスカードをプリントで渡し、同時にデジタルノートにも記録することで、推敲の際の確認に活用する。

## 視点4 個別最適な学びと協働的な学びの取組の評価

### 《生徒アンケート結果》

事前  事後

(教科等の単元の目標「思考力、判断力、表現力等」に関する質問) 「書くこと」について、書く内容の中心が明確になるように、文章の構成や展開を考えることができる。	30%	87%
(<協働的な学び>に関する質問) 自分や友達の考えについて、タブレットPCなどを使ってアドバイスをし合い、自分のよい点や改善点に気付くことができる。	33%	87%

### 《考察》

自分が選んだ故事成語について体験談を発表した後に、何の故事成語かを考えるグループ活動によって、伝わりやすさでよい点や改善点を助言し合うことができた。また、アドバイスカードを共有することで、助言し合ったことを基に自分の文章のよい点を見いだすことができた。改善点については、文章の着目する点を明確にし、例示したりよい改善例を共有したりすることで、より適切に助言できると考える。



### 単元(題材)の目標

- (1) 人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解する。
- (2) 世界各地における人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性ととも、世界の主な宗教の分布について理解する。
- (3) 世界各地における人々の生活の特色や変容について、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する。
- (4) 世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

### 指導計画 (全 10 時間扱い)

課題把握	【第1時】 ○ 世界各地の日本と異なる生活の様子がみられる資料から、問いを見いだしたり予想を立てたりして、単元の学習の見通しをもつ。
課題追究 情報収集	【第2～6時】 ○ 世界各地の自然環境の影響を受けた生活、社会環境の変化に伴う生活の変容及び宗教の影響を受けた生活等について、各自が異なる方法で必要な情報を収集し、読み取った情報から、人々の生活の特色を考察する。 <b>&lt;指導の個別化&gt;</b>
課題解決 考察・構想 まとめ	【第7・8時】 ○ 調べたことを基にグループで話し合い、世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由について考察するとともに、3D地図を使って「バーチャルツアー」としてまとめ、表現する。 <b>&lt;協働的な学び&gt;</b>
新たな課題 振り返り	【第9・10時】 ○ 学習したことを生かし、世界各地の人々の生活や環境について、新たな課題を見だし、追究しようとする。 <b>&lt;学習の個性化&gt;</b>

#### 視点1 単元(題材)における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

個別最適な学び		協働的な学び
<b>&lt;指導の個別化&gt;</b> 人々の生活は、自然環境や宗教等の影響を受けていることについて、資料集、地図帳及びタブレットPC等、各自が異なる方法で調べて理解する。	<b>&lt;学習の個性化&gt;</b> 世界各地の人々の生活や環境について、各自が新たな課題を見だし、学習したことを深め、広げる。	<b>&lt;協働的な学び&gt;</b> グループ発表を通して、「異なる環境で類似する生活」や「類似の環境で異なる生活」等に気付き、よりよい考えを生み出す。

#### 視点2 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者用デジタル教科書</li> <li>・プレゼンテーション機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習動画</li> <li>・共同編集機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル地図(3D)</li> <li>・デジタルノート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共有機能</li> </ul>
--	--	---	---

#### 視点3 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた学習過程の充実

# <学習の個性化>におけるICTを活用した新たな学習活動

## 本時の目標 (第10時/全10時間)

学習したことを生かし、世界各地の人々の生活や環境について、新たな課題を見だし、主体的に追究しようとする態度を養う。

- 1 本時の学習に見通しをもつ。
- 2 さらに調べたいことや疑問に思っていること等を共有し整理する。
- 3 世界各地の生活や環境について、**新たな課題を見いだす**。
- 4 見いだした新たな課題について、**各自で追究する**。
- 5 各自で追究した内容を、**3D地図に追記する**。
- 6 単元の学習を振り返る。

### バーチャルツアーで世界の果てまで行って追究!

- 自分や他の生徒のデジタルノートや3D地図にまとめた「バーチャルツアー」を参考にして、**新たな課題を見いだす**。



#### 共有機能

新たな課題を見いだすために、デジタルノート及びバーチャルツアーの画面を共有し、いつでも参考にできるようにする。

- 見いだした新たな課題について、これまでの学習を生かし、**各自で追究し、3D地図に追記する**。



#### 3D地図

「バーチャルツアー」を生かし、新たに見いだした課題に関する情報を3D地図に追記する。

ポリビアの首都ラパスは、自分たちの市と似て土地の高低差が大きいことを知り、親近感を抱いた。ラパスでは、街と街の間に街の間に約千メートルの差があることから、人の移動手段としてロープウェイを使っている。物流についても高地ならではの工夫や苦労があると思うのでより詳しく調べていきたい。



研究の内容

実践事例

指導の個別化

学習の個性化

協働的な学び

## 視点4 個別最適な学びと協働的な学びの取組の評価

### 《生徒アンケート結果》

事前 ■ 事後 ■

(教科等の単元の目標「学びに向かう力、人間性等」に関する質問) 世界各地の人々の生活と環境について、主体的に課題を追究しようとする。	<span style="color: blue;">■</span> 92%	<span style="color: orange;">■</span> 100%
(<学習の個性化>に関する質問) 自分で設定した課題について、タブレット PC などを使って、考えを深めたり広げたりすることができる。	<span style="color: blue;">■</span> 33%	<span style="color: orange;">■</span> 36%

### 《考察》

各自が異なる方法で学習を進めるとともに、新たな課題を追究する学習過程を設定したことにより、「学びに向かう力、人間性等」に関する質問について肯定的な回答の割合が上昇したと考えられる。また、「学習の個性化」に関する質問項目の数値がわずかに増加した。次単元等で、継続的に新たな課題を見だし、追究する学習活動を取り入れることで、さらに学習の個性化を図ることができると考える。



## 単元（題材）の目標

- (1) 一元一次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数理的に捉えたり数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
- (2) 文字を用いて数量の関係や法則などを考察することができる。
- (3) 一元一次方程式について、**数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度**を身に付ける。

## 指導計画（全 17 時間扱い）

【第 15～17 時】  
と同じ  
＜学習過程＞

### 【第 1～8 時】

- 方程式の必要性を理解し、方程式とその解の意味を理解する。
- 等式の性質や移項の考え方を使って、一次方程式を解く。

＜指導の個別化＞

【第 15～17 時】  
と同じ  
＜学習過程＞

### 【第 9～14 時】

- 方程式を具体的な場面で活用することを通して、方程式を活用して問題を解決するときの考え方や手順を理解する。
- 方程式を具体的な場面で活用して問題を解決する。
- 方程式を用いて求めた解が問題に適しているかどうかを考え、説明する。

問題の設定、理解  
解決の計画、実行  
結果の検討  
結果の振り返り

### 【第 15～17 時】

- 一次方程式を用いて具体的な場面で問題を解決する問題を調べたり考えたりして、数学を生活や学習に生かそうとする。また、その問題の解決方法を考え、振り返る。**＜協働的な学び＞**

＜学習の個性化＞

### 視点 1 単元（題材）における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

#### 個別最適な学び

#### ＜指導の個別化＞

方程式の解き方を理解するために、教科書や学習者用デジタル教科書に加え、自身の特性や学習進度等に応じてドリル教材等を活用する。

#### ＜学習の個性化＞

興味・関心等に応じて、一次方程式を用いて具体的な場面で解決する新たな問題を各自が見だし、学習したことを深め、広げる。

#### 協働的な学び

#### ＜協働的な学び＞

一次方程式を用いて、具体的な場面で解決する問題及びその解決方法を話し合い、数学的な表現や処理のよさや数学の実用性に気付く。

### 視点 2 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じた ICT の活用

・ドリル教材 ・スライド機能 ・共同編集機能 ・コメント機能 ・共有機能 ・検索機能

### 視点 3 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた学習過程の充実

# <協働的な学び>におけるICTを活用した新たな学習活動

## 本時の目標 (第15時/全17時間)

一元一次方程式を用いた具体的な場面を解決する問題を調べたり考えたりして、一元一次方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとすることができる。

1 本時の目標と授業の流れを確認する。

2 各自で調べたり考えたりした、具体的な場面に関する問題について、グループで共有し、話し合う。

3 グループで解決方法をスライドにまとめる。

4 他のグループが作成した具体的な場面に関する問題を解いて、コメント機能を用いて感想等を伝え合う。

5 本時の学習を振り返る。グループで作成したスライドはクラウド上に提出する。

### みんなの知恵でよりよい問題を

- 各自で調べたり考えたりした、具体的な場面に関する問題について、クラウドで共有し、グループで話し合う。

#### 検索機能等

教科書、図書資料及びタブレットPC等を用いて、具体的な場面に関する問題について調べたり考えたりしたことを、グループで話し合う。



- グループ内でスライドの内容を検討した上で分担し、共同編集機能を使ってまとめる。

#### 共同編集機能

グループ内で、互いに調べたことや考えたことを話し合い、問題を考える。

解決方法について困ったときは、仲間から意見やアドバイスをもらうなどして、よりよい考えを生み出す。



## 視点4 個別最適な学びと協働的な学びの取組の評価

### 《生徒アンケート結果》

事前  事後

(教科等の単元の目標「学びに向かう力、人間性等」に関する質問) 互いに作った問題や、その解決方法を共有して、数学を生活や学習によりよく生かすことができる。	26%	68%
(<協働的な学び>に関する質問) 共同編集機能を使って、自分と仲間の考えを共有して、解決の過程を振り返り、よりよい考えに気付くことができる。	61%	81%

### 《考察》

これまでの授業では、数学が苦手な生徒にとって、問題づくりは前向きに取り組むことが難しい場面が多く、問題づくりの後の意見交換においても、発言する生徒が限定的になってしまう等の姿が見られた。タブレットPCを用いた活動を取り入れることで、仲間の考えを共有したり、意見交換をしたりすることが容易にできるようになる。生徒アンケートからも、学びに向かう力、人間性等に関する質問について肯定的な回答の割合が42ポイント上昇したことから、共同編集機能を用いた協働的な学びは有効であったと考えられる。



## 単元(題材)の目標

- (1) 光に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、光の反射や屈折、凸レンズの働きを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。
- (2) 光について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働きの規則性や関係性を見だして表現する。
- (3) 光に関する事物・現象にすすんで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

## 指導計画 (全 12 時間扱い)

<p>【第 10～12 時】 と同じ 〈学習過程〉</p>	<p>【第 1～9 時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 光の反射、屈折、凸レンズの働きについての基本的な概念や原理・法則などを理解する。 <span style="color: red;">〈指導の個別化〉</span></li> <li>○ 観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付ける。</li> </ul>
<p>自然事象に 対する気付き 課題の設定 仮説や検証計画 の立案①</p>	<p>【第 10 時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 光に関する事物・現象の動画を視聴し、自分の興味・関心に応じて課題を設定する。</li> <li>○ デジタルノートに蓄積した既習の内容を基に、自分の仮説や検証計画を立てる。</li> </ul>
<p>仮説や検証計画 の立案② 観察・実験</p>	<p>【第 11 時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 意見交換を複数回行い、仮説や検証計画をより妥当なものにする。 <span style="color: red;">〈協働的な学び〉</span></li> <li>○ 仮説や検証計画を基に、個人で観察、実験を行う。</li> </ul>
<p>考察 表現・伝達</p>	<p>【第 12 時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 観察、実験の結果を基に、個人で結論を見いだす。</li> <li>○ 考察や結論を共有し、既習の内容や理科の見方・考え方が日常生活や社会における問題発見・解決の場面で生かせることを確かめる。 <span style="color: red;">〈学習の個性化〉</span></li> </ul>

### 視点 1 単元(題材)における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

個別最適な学び	協働的な学び
<p style="text-align: center; color: #0056b3;">〈指導の個別化〉</p> <p>光の反射、屈折、凸レンズの働きについての基本的な概念や原理・法則などについて、デジタルノートやデジタル教科書を適切に活用して個人に合った進度や方法で探究する。</p>	<p style="text-align: center; color: #e91e63;">〈協働的な学び〉</p> <p>光に関する異なる事物・現象について、意見交換を複数回行い、仮説や検証計画をより妥当なものにする。</p>

### 視点 2 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じた ICT の活用

- ・ 学習者用デジタル教科書
- ・ デジタルノート
- ・ プレゼンテーション機能
- ・ 共同編集機能
- ・ カメラ機能

### 視点 3 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた学習過程の充実

# <協働的な学び>におけるICTを活用した新たな学習活動

本時の目標 (第11時/全12時間)

見通しをもって観察、実験などを行うために、自分の仮説や検証計画をより妥当なものにする。

(前時)

- 興味・関心に応じて課題を設定する。

ア 合わせ鏡 

イ 消える硬貨 

ウ 反対になる矢印 

- 異なる事物・現象を探究している者同士(異質グループ)で意見交換する。

(本時)

- 自分と同じ事物・現象を探究している者同士(同質グループ)で意見交換する。
- 自分と同じ事物・現象を探究している全ての者(同質全体)で意見を共有する。
- 意見交換、共有によって変更したより妥当な仮説や検証方法をデジタルノートに記録(更新)する。
- より妥当な検証方法を基に観察、実験を行い、結果をデジタルノートに記録(更新)する。

## 検証計画は3回トークでより妥当

- 自分の仮説や検証計画の意見交換を複数回行う。

①異質グループ ②同質グループ



③同質全体 (画面共有)

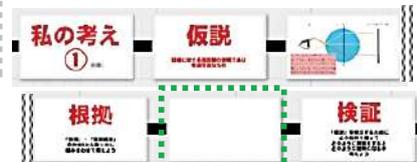


- より妥当な検証方法を基に観察、実験を行う。



### デジタルノート

蓄積した既習の内容を基に自分の仮説や検証計画を立案



意見交換や共有によって変更した内容を記録(更新)



観察・実験の結果をカメラ機能で撮影し、デジタルノートに記録(更新)

## 視点4 個別最適な学びと協働的な学びの取組の評価

### 《生徒アンケート結果》

事前 事後

質問内容	事前 (%)	事後 (%)
(教科等の単元の目標「思考力、判断力、表現力等」に関する質問) 問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、光の性質などについて、規則性や関係性を見い出して表現できる。	31%	88%
(<協働的な学び>に関する質問) 意見交換を複数回行い、仮説や検証計画などをより妥当なものにすることができる。	34%	91%

### 《考察》

これまで、意見交換によって何が変わったか記録されない、話し合うだけでより妥当にならない実践がなされることがあった。本実践では、ICTの活用によって学びの蓄積を明確化し、計画的な意見交換によって考えをより妥当なものにすることができた。思考力、判断力、表現力等に関する質問、協働的な学びに関する質問について肯定的な回答の割合がどちらも57ポイント上昇したことは、本実践の成果であると考えられる。



## 単元(題材)の目標

- (1) 音素材の特徴及び音の重なり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。
- (2) リズム、テクスチャ(音の重なり方)を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。
- (3) リズム、テクスチャ(音の重なり方)の違いによって生み出されるイメージの変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。

## 指導計画(全4時間扱い)

音や音楽との  
出会い  
知覚、感受する

### 【第1・2時】

- 教師の見本、参考動画及び過去の作品を視聴し、本題材の学習の見通しをもつ。
- 音楽をつくりながら、音素材の特徴及び音の重なり方の特徴と表したいイメージとの関わりについて、見本や動画を参考に分かったことをワークシートに記入する。

<指導の個別化>

試行錯誤しながら、  
どのように  
音楽で表現する  
かについて思い  
や意図をもつ

### 【第3時】

- 実際に演奏したり意見交換をしたりしながら音楽をつくり、つくった音楽について互いに助言をする。
- 思い付いた新たなイメージを生かし、作品をよりよく改善する。
- どのように音楽をつくるかについて思いや意図をワークシートに記入する。

<協働的な学び>

思いや意図を  
音楽で表現する

### 【第4時】

- グループで演奏しながら、作品を完成させる。
- 演奏を発表し合い、それぞれのよさについて感じ取る。
- 本題材を通じて、学んだことや感じたことについて振り返る。

<学習の個性化>

### 視点1 単元(題材)における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

#### 個別最適な学び

##### <指導の個別化>

音素材の特徴及び音の重なり方の特徴と表したいイメージとの関わりについて、教師の見本や参考動画、過去の作品等から理解する。

##### <学習の個性化>

リズムやテクスチャの違いによって生み出されるイメージの変化に自分なりの興味・関心をもち、音楽に対する感性を豊かにする。

#### 協働的な学び

##### <協働的な学び>

他者の意見や作品から知覚したことと感受したこととの関わりを考え、どのように音楽をつくるかについてよりよい思いや意図をもつ。

### 視点2 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

- ・ 学習動画
- ・ 共同編集機能
- ・ カメラ機能

### 視点3 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた学習過程の充実

# <協働的な学び>におけるICTを活用した新たな学習活動

## 本時の目標（第3時／全4時間）

リズム、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。

1 グループ作品のイメージについて記入し、**他のグループと共有する。**

2 作品を演奏発表し、よい点や改善点について、**他のグループから意見をもらう。**

3 **他グループからの意見を参考に作品を改善し、グループで演奏して試す。**

4 どのように音楽をつくるかについて**思いや意図を記入する。**

### 見て聴いてフィードバックで、イメージ膨らむ

#### イメージを伝える

- グループ作品のイメージについて、共同編集機能を用いて説明する。

#### 意見をもらい作品を改善

- 他のグループの演奏発表を聴き、共同編集機能を用いて、**よい点や改善点についてコメントをする。**



#### 共同編集機能

気付いたことを他グループに伝えたり、他グループから意見をもらったりする。

- 自分たちの演奏をタブレットP Cで録画し、確認しながら**よりよい作品になるように改善する。**



#### 思いや意図をもつ

- **保存した他グループからのコメントや演奏動画を基に本時を振り返り、どのように音楽をつくるかについて最終的に考えたよりよい思いや意図を記入する。**



## 視点4 個別最適な学びと協働的な学びの取組の評価

### 《生徒アンケート結果》

事前 ■■■■ 事後 ■■■■

質問内容	事前 (%)	事後 (%)
(教科等の題材の目標「思考力、判断力、表現力等」に関する質問) 音の重なり方やリズムの違いによるイメージの違いを感じ取って、どのような工夫をして音楽をつくるか考えをもつことができる。	63%	100%
(<協働的な学び>に関する質問) 自分や友達の考えを比べたり結び付けたりして、よりよい考えを生み出すことができる。	97%	100%

### 《考察》

グループ同士で互いの作品に対してアドバイスをする際、共同編集機能を使うことで瞬時に反応が分かるので、意見交換しながら音楽をつくったり、つくった音楽について助言したりすることができた。その結果、全ての生徒が、思考力、判断力、表現力等に関する質問について肯定的な回答をしたと考える。協働的な学びについては、本題材以外でも取り組んでいるため当初から肯定的な回答が多かったが、本題材を通して、更に他者との学びからよりよい思いや意図をもつことができたと考えられる。

指導の  
個別化

# 中学校 第1学年 技術・家庭（技術分野） 「オリジナルペン立て製作～最適な加工方法を考える～」



## 単元（題材）の目標

材料と加工の技術の見方・考え方を働かせ、木材を利用した製作をする実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている材料と加工の技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活の中から材料と加工の技術と適切な製作に関わる問題を見いだして課題を設定する力、適切な製作の実現に向けて、適切かつ誠実に材料と加工の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付ける。

## 指導計画（全 13 時間扱い）

<p>既存の技術の理解 課題の設定 設計・計画</p>	<p>【第1・2時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元（題材）の目的（ペン立て製作を通して、木材を利用した製作に必要な知識や技能を身に付けること）をつかみ、課題を設定する。</li> <li>○ ペン立て製作に必要な材料の加工方法や工具の使い方などについて、おおまかに知る。</li> </ul>
<p>課題解決に向けた製作  成果の評価</p>	<p>【第3～6時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 端材を利用し材料の加工方法や工具の使い方などについて実践・検証する。また、実践・検証中の動画や画像などを基に、材料の加工方法や工具の使い方について分かったことをまとめる。 <b>&lt;指導の個別化&gt;</b></li> </ul> <p>【第7～11時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実践・検証によって分かったこと共有し、自分に最適な材料の加工方法や工具の使い方を選択してペン立て製作をする。 <b>&lt;学習の個性化&gt;</b></li> </ul>
<p>次の問題の解決の視点</p>	<p>【第12・13時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ペン立て製作を通して身に付けた材料の加工方法や工具の使い方、課題と改善策などを発表し、今後の製作（木材を利用した製作）のよりよい解決方法を考える。 <b>&lt;協働的な学び&gt;</b></li> </ul>

### 視点1 単元（題材）における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

個別最適な学び	協働的な学び
<p><b>&lt;指導の個別化&gt;</b> ネット検索や動画視聴、実践・検証などにより、ペン立て製作に必要な材料の加工方法、工具の使い方などについて身に付ける。</p>	<p><b>&lt;協働的な学び&gt;</b> ペン立て製作を通して身に付けたことや課題と改善策などを発表し、今後の製作のよりよい解決方法を考える。</p>

### 視点2 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ デジタルノート</li> <li>・ 共同編集機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検索機能</li> <li>・ プレゼンテーション機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カメラ機能</li> </ul>
---	---	---

### 視点3 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた学習過程の充実

# <指導の個別化>におけるICTを活用した新たな学習活動

## 本時の目標（第3時／全13時間）

実践・検証などを通して、材料の加工方法や工具の使い方などについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。

1 本時の目標と授業の流れを確認する。

2 端材を利用し、材料の加工方法や工具の使い方などについて**実践・検証**などをする。

(個人) **ネット検索**や**動画視聴**、**切断の実践・検証**をする。

(ペア) 実践・検証中の様子を動画撮影する。

(個人) 実践・検証した断面図や工具を写真撮影する。

(ペア) 撮影した動画や画像を確認するとともに、ペアから意見や感想を聞く。

3 撮影した動画や画像などを基に、材料の加工方法や工具の使い方などについて**自己評価**する。

4 撮影した動画や画像、自己評価などをデジタルノートに記録する。

## 切断の技術は My best way で

- 材料の加工方法や工具の使い方について、**ネット検索**や**動画視聴**、**切断の実践・検証**など、個に応じた方法で行う。

### 実践・検証の撮影

### カメラ機能

ペアの生徒の実践・検証中の様子を動画で撮影し、材料の加工方法や工具の使い方などについての自己評価等に活用できるようにする。

### 切断の実践・検証

### 動画視聴

### ネット検索

- 撮影した動画や画像、ペアの意見や感想を基に、材料の加工方法や工具の使い方などについて**自己評価**し、デジタルノートに記録する。

## 視点4 個別最適な学びと協働的な学びの取組の評価

### 《生徒アンケート結果》

事前  事後

(教科等の単元の目標「知識及び技能」に関する質問) 木材を利用した製作に必要な材料の加工方法や工具の使い方を理解し、技能を身に付けることができる。	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 53%;"><span style="display:inline-block; width:100%; height:10px; background-color:blue;"></span> 53%</div> <div style="width: 87%;"><span style="display:inline-block; width:100%; height:10px; background-color:orange;"></span> 87%</div> </div>
(<指導の個別化>に関する質問) ネット検索や動画視聴、切断の実践・検証など、自分に合った方法を選択して学習を進めることができる。	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 83%;"><span style="display:inline-block; width:100%; height:10px; background-color:blue;"></span> 83%</div> <div style="width: 100%;"><span style="display:inline-block; width:100%; height:10px; background-color:orange;"></span> 100%</div> </div>

### 《考察》

材料の加工方法や工具の使い方について、これまでは教師が伝達したとおりに生徒が切断する実践がなされてきた。指導の個別化に関する質問について肯定的な回答の割合が100%に達し、知識及び技能に関する質問について肯定的な回答の割合が34ポイント上昇したことは、生徒が自分に合った方法を選択して学習を進め、撮影した動画や画像を基に自己評価するという実践の成果であると考えられる。

指導の  
個別化

## 中学校 第1学年 技術・家庭（家庭分野） 「衣食住の生活～今日よりちょっといい住生活！～」



### 単元（題材）の目標

- (1) 家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能及び家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解する。
- (2) 家族の安全を考えた住生活の整え方などについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- (3) よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方などについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

### 指導計画（全7時間扱い）

<b>生活の 課題発見</b>	<b>【第1～4時】</b> ○ 家族の生活と住空間の関わりや住居の基本的な機能、住まいの安全について知る。 ○ 自分の生活を見つめ、問題を見だし、仮課題を設定する。 <span style="color: #0070c0;">&lt;指導の個別化&gt;</span> ○ 仮課題について話し合い、質を高めて課題を設定する。 <span style="color: #0070c0;">&lt;学習の個性化&gt;</span>
<b>解決方法の 検討と計画</b>	<b>【第5・6時】</b> ○ 課題解決のための解決策を構想する。 <span style="color: #0070c0;">&lt;指導の個別化&gt;</span>
<b>課題解決に 向けた実践活動</b>  <b>活動の 評価・改善</b>  <b>家庭・地域での 実践</b>	<b>（家庭学習）</b> ○ 「今日よりちょっといい住生活」の構想した解決策を実践する。  <b>【第7時】</b> ○ 「今日よりちょっといい住生活」の実践を振り返り、班で共有し、もう一度自分の住生活を見つめ直す。 <span style="color: #e67e22;">&lt;協働的な学び&gt;</span>  <b>（家庭学習）</b> ○ 「今日よりちょっといい住生活」を工夫し創造し、実践する（レポートにまとめる）。

#### 視点1 単元（題材）における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

個別最適な学び	協働的な学び
<p style="text-align: center; color: #0070c0;">&lt;指導の個別化&gt;</p> タブレットPCの活用や友達、図書館司書、教師などとの対話を通して、自分の生活から問題を見いだして課題を設定したり、解決策を構想したりする。	<p style="text-align: center; color: #e67e22;">&lt;協働的な学び&gt;</p> 自分の実践や振り返ったことを班で共有し、よりよい住生活を実現しようとする。
<p style="text-align: center; color: #0070c0;">&lt;学習の個性化&gt;</p> 「今日よりちょっといい住生活」に向けた仮課題について、質問のポイントに基づいて意見交換し、仮課題の質を高める。	

#### 視点2 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

- ・ デジタルノート
- ・ 検索機能
- ・ オンライン通話機能
- ・ 共同編集機能

#### 視点3 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた学習過程の充実

# <指導の個別化>におけるICTを活用した新たな学習活動

## 本時の目標（第3時／全7時間）

自分の住生活を振り返り、“今日よりちょっといい”をキーワードに問題を見いだしたり、仮課題を設定したりすることができる。

- 1 本時の目標と授業の流れを確認する。
- 2 自分の住生活から**問題を見だし**、思考ツールに書き込む。
- 3 自分に**最適な方法を選択し**、思考ツールに足りない情報を追記する。
  - ①インターネットで検索
  - ②本で調べる
  - ③友達と対話
  - ④**オンライン先生と対話**
  - ⑤図書館司書のレファレンスサービス
- 4 思考ツールを見て、関心があること、自分にとって**問題だと思ったこと**などを基に**仮課題を設定**する。
- 5 仮課題を共同編集機能に記録し、本時の学習を振り返る。

## オンライン先生で解決

- 本やインターネットでの解決に困ったときは、**オンライン先生との対話**からヒントを得る。



**オンライン通話機能**  
授業の空いている教師とオンラインでつないでおき、生徒からの呼び掛けに適宜応答する。

- 情報の追記された思考ツールを基に、自分の興味・関心や問題だと思ったことを整理し、**仮課題を設定**する。

興味関心をもっと調べたいこと	思い立った理由	自分の生活とどのくらい	最終的にどんなことまで調べたいか
健康・災害への備え	健康・災害について調べてみたいので本で調べて、災害への対策を知りたい。災害への対策を知りたい。災害への対策を知りたい。	いつか災害が起きたらどうしようか。災害への対策を知りたい。災害への対策を知りたい。	健康・災害について、健康を調べたい。災害について、健康を調べたい。災害について、健康を調べたい。

### ▲興味・関心の整理

安全・安心で身も心も健康に

### 設定理由

- ・安心して生活できれば心が健康になるし、安全に生活できれば体も健康になるから

### ▲仮課題の設定



## 視点4 個別最適な学びと協働的な学びの取組の評価

### 《生徒アンケート結果》

事前 ■ 事後 ■

(教科等の単元の目標「思考力、判断力、表現力等」に関する質問) 家族の安全を考えた住生活などについて、問題を見だして課題を設定し、解決策を構想して課題を解決することができる。	53%	83%
(<指導の個別化>に関する質問) インターネットや本、友達や教師との対話など、自分に合った方法を選択して学習を進めることができる。	77%	93%

### 《考察》

指導の個別化に関する質問について肯定的な回答の割合が16ポイント上昇した。これは、これまで教師に与えられた方法を何となく自分に合っていると感じていた生徒が、様々な方法を試し、選択して学習を進めるという実践を通して、そのよさを実感した成果であると考えられる。また、思考力、判断力、表現力等に関する質問について肯定的な回答の割合が30ポイント上昇したことについては、家庭分野において、問題を見だし、課題を設定し、解決策を構想するという学習過程を重視した実践による成果であると考えられる。



## 単元(題材)の目標

友達に、漫画やアニメを含めた日本の文化が、世界でどのように受け止められているかを理解してもらうために、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。

## 指導計画 (全9時間扱い)

<p>目的や場面・状況等の理解 見通しを立てる</p>	<p>【第1～5時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 関係代名詞(主格)の特徴や決まりを理解するために、漫画やアニメを含む日本の文化について、教科書、図書資料及びタブレットPC等で調べたことを、関係代名詞(主格)を用いて即興で話す。 <b>&lt;指導の個別化&gt;</b></li> <li>○ 漫画やアニメを含む日本の文化について調べたり、書かれた記事を読んだりして得た知識や情報を整理し、互いの優れた点等を参考によりよい文章を書く。 <b>&lt;協働的な学び&gt;</b></li> </ul>
<p>具体的なコミュニケーションの実施</p>	<p>【第6～8時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各自の興味・関心に応じてスピーチのテーマを設定し、自分の考えや気持ちをまとめ、スピーチの原稿及び発表用資料を作成し、発表練習を行う。 <b>&lt;学習の個性化&gt;</b></li> </ul>
<p>まとめ振り返り</p>	<p>【第9時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ スピーチの発表を行い、互いの発表内容や様子を振り返る。</li> </ul>

### 視点1 単元(題材)における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

個別最適な学び	協働的な学び
<p><b>&lt;指導の個別化&gt;</b> 漫画やアニメを含む日本の文化について、教科書、図書資料及びタブレットPC等で調べ、関係代名詞(主格)を用いて即興で話す。</p>	<p><b>&lt;学習の個性化&gt;</b> 興味・関心や考えに応じてスピーチのテーマを設定し、これまでに学習した内容を基に、発表の内容を深め、広げる。</p>
<p><b>&lt;協働的な学び&gt;</b> 各自が調べたり読んだりして整理した知識や情報を英文で表現し、互いの優れた点等を参考によりよい文章を書く。</p>	

### 視点2 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習者用デジタル教科書</li> <li>・ プレゼンテーション機能</li> <li>・ 共有機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導者用デジタル教科書</li> <li>・ 共同編集機能</li> <li>・ 検索機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オンライン翻訳サイト</li> <li>・ カメラ機能</li> <li>・ デジタルノート</li> </ul>
--	---	--

### 視点3 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた学習過程の充実

# <協働的な学び>におけるICTを活用した新たな学習活動

## 本時の目標（第5時／全9時間）

漫画やアニメを含む日本の文化が、世界でどのように受け止められているかについて調べたり、書かれた記事の概要を捉えて整理したりして、スピーチの発表に向けてよりよい文章を書く。

- 1 本時の目標と授業の流れを確認する。
- 2 漫画やアニメを含む日本の文化について調べたり、書かれた記事を読んだりして得た知識や情報を整理する。
- 3 整理した知識や情報をクラウド内にあるトピックごとのフォルダで**友達と共有する**。
- 4 共有した内容について、**ペアやグループで比較したり、優れた点等を話し合ったりして、よりよい文章を書く**。
- 5 本時の学習を振り返る。

### クラウド共有でアイデアいいところ取り

- タブレットPC等を用いて調べたり読んだりした記事の内容について、得た知識や情報を英文で表現する。

#### 検索機能等

タブレットPC等を使って調べた、記事等の内容を英文で表現する。必要に応じて、オンラインの翻訳ソフト等を活用し、文章の内容を検討する。



- 共有した内容を**ペアやグループで比較したり、優れた点等を話し合ったりして、よりよい文章に修正する**。

#### 共有機能

クラウドで共有した情報は、自身のクラスだけでなく、他クラスの情報も閲覧できるようにすることで、今後のスピーチの発表に向けて、よりアイデアを膨らませる。



## 視点4 個別最適な学びと協働的な学びの取組の評価

### 《生徒アンケート結果》

事前 ■ 事後 ■

<b>（教科等の単元の目標「思考力、判断力、表現力等」に関する質問）</b> 漫画やアニメを含めた日本の文化について、話したい内容をメモにまとめ、説明したり自分の考えを簡単な語句や文を用いて話したりすることができる。	事前 <span style="color: blue;">■</span> 43% 事後 <span style="color: orange;">■</span> 83%
<b>（&lt;協働的な学び&gt;に関する質問）</b> 自分や友達の考えについて、タブレットPC等を使って内容をクラウド共有し、比較する活動を通して、よりよい考えに気付くことができる。	事前 <span style="color: blue;">■</span> 57% 事後 <span style="color: orange;">■</span> 87%

### 《考察》

生徒自身が興味や関心に応じて課題を設定し、個人で得た知識や情報をクラウド等を活用して共有し、話し合う機会を設定した。情報共有から着想を得た柔軟な発想でスピーチ原稿を作成し、様々な視点で発表を行う生徒が多く見られた。思考力、判断力、表現力等に関する質問について肯定的な回答の割合が40ポイント上昇したことから、クラウド等での情報の共有を基にした協働的な学びは有効であると考えられる。



## 単元（題材）の目標

社会的な課題を自分との関わりで考え、その解決に向けて多様な価値観を背景とする人々と協働して取り組もうとする実践意欲を高める。

## 指導計画（全3時間扱い）

【第3時】と同じ  
<学習過程>

【第1時】教材名「海とストロー」(D 自然愛護)

- 自然との関わりについて、自分のこととして捉え、自分の考えをもつ。
- 主人公の心情等から、自然と関わっていく上で大切なことについての考えを交流する。
- これからどんなことを心掛けて自然と関わっていくか、考えを深めたり、広げたりする。

【第3時】と同じ  
<学習過程>

【第2時】教材名「ぼくの物語 あなたの物語」(C 公正、公平、社会正義)

- 他者との関わりについて、自分のこととして捉え、自分の考えをもつ。
- 教材から他者との関わりの中で大切にしたい心についての考えを交流する。
- これからどんなことを心掛けて他者と関わっていくか、考えを深めたり、広げたりする。

問題意識をもつ

【第3時】教材名「希望の義足」(C 国際理解、国際貢献)

自分の考えをもつ

- 世界との関わりについて、経験や知識、教材や他者との交流などを手掛かりとして、自分のこととして捉え、考えをもつ。 **<指導の個別化>**
- 「世界の平和に貢献するために大切なこと」について、教材から話し合いたい場面を選び世界の日本の一人として、の考えを交流する。 **<協働的な学び>**
- 多様な他者と協働して世界の平和に貢献するために、一人の人間として自分はこれからどんなことを心掛けて世界と関わっていくか、考えを深めたり、広げたりする。 **<学習の個性化>**

他者の考えを知る  
他者と話し合う

人間としての  
生き方についての  
考えを深める

### 視点1 単元（題材）における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

#### 個別最適な学び

##### <指導の個別化>

道徳的価値について、これまでの経験や知識、教材や他者との交流などを手掛かりとして、自分との関わりを問い直し、自分の考えをもつ。

##### <学習の個性化>

一人の人間としてのこれからの自分の生き方について、考えを深めたり、広げたりする。

#### 協働的な学び

##### <協働的な学び>

話し合いたい場面を選択し、考えを共有したり自分の考えを整理したりすることを通して、大切にすべきことや実行に移すことの難しさについて、よりよい考えをもつ。

### 視点2 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

・ デジタル教材

・ アンケート機能

・ 共有機能

・ 思考ツール

### 視点3 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた学習過程の充実

# <協働的な学び>におけるICTを活用した新たな学習活動

## 本時の目標（第3時／全3時間）

世界の中の日本人の一人として、多様な他者と協働して世界の平和に貢献しようとする実践意欲を高める。

- 国際協力の意味について自分の考えをもち、デジタル教材（心情メーター）を使って**考えを伝え合う**。
- 登場人物の行為や心情、出来事等から話し合いたい場面を選び、**各自の考えを共有機能で共有**する。
- 交流した考えを自分との関係において考える。  
①共感した考えや新たな学びを思考ツール（Xチャート）に書き込む。  
②世界の平和に貢献するために**大切なことや実現することの難しさ**について考え、思考ツール（座標軸）に書き込む。
- 思考ツール（座標軸）を使って、自分との関係で考えたことを**友達と比べながら話し合う**。
- 世界平和に貢献することについて本時を通して考えたことを共有機能に入力し、**共有する**。

### 異なる場面で多様な考え、みんなはどう解く？

- 話し合いたい場面を選び、「世界平和に貢献するために大切なこと」を考える。

#### 場面選択 ▶ 画面共有

##### 共有機能

共有機能を使って各自の考えを共有し、短い時間で多様な考えに触れ、考えを深めたり広げたりする。



- 世界平和に貢献するために**大切なことや実行することの難しさ**について**様々な視点**から考えを深める。

#### 思考ツール ▶ 話し合い

##### 思考ツール

思考ツールを活用することで、友達の考えと自分の考えを比べて、理由や根拠等を明確にすることで他者理解や自己理解を深める。



## 視点4 個別最適な学びと協働的な学びの取組の評価

### 《生徒アンケート結果》

事前 ■■■■ 事後 ■■■■

<b>（多面的・多角的な見方へと発展した思考に関する質問）</b> 友達の考えを自分の考えと比べたり、学習したことをもとに、様々な視点から考えを深めたりすることができる。	93% 100%
<b>（&lt;協働的な学び&gt;に関する質問）</b> 自分や友達の考えについて、タブレットPCなどを使って比べたり結び付けたりして、よりよい考えをもつことができる。	30% 98%

### 《考察》

一人一人の興味は違うからこそ、考えるテーマを設定し教材から話し合いたい場面を選択させたことで生徒が主体的に考えることができた。また、共有機能の活用により、多様な考えを全体で交流することができ、生徒の考えを深めたり広げたりすることにつながった。さらに、思考ツールを用いたことで、多様な考えを自分との関わりの中で結び付けて、人間としての生き方について多様な視点から考えを深めたり、広げたりすることができた。

# 研究のまとめ

本研究を通して、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、目指す子供像を達成するために、次の4つの視点が大切であることが明らかになった。

## 【視点1】各教科等の単元（題材）における個別最適な学びと協働的な学びを具体化した上で学習活動の充実を図ること



各教科等の単元（題材）において、「指導の個別化」、「学習の個性化」及び「協働的な学び」について具体化した上で学習活動の充実を図った。

このことにより、各学校が編成した教育課程を生かし、個別最適な学びと協働的な学びの観点から学習活動の充実の方向性を改めて捉え直して実践することができた。

## 【視点2】個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTを活用すること

各教科等の単元（題材）の学習活動において、地域・学校や児童・生徒の実情を踏まえ、ICTを活用し、新たな教材を使用するとともに児童・生徒が共同で作成・編集等を行う活動や多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動等を行った。

このことにより、児童・生徒が自分にふさわしい学習方法を模索するなど、一人1台端末等のICTを活用して「新たな学習活動」に取り組むことができた。



## 【視点3】個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付け、各教科等の学習過程の充実を図ること



「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にもその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に位置付け、学習過程の充実を図った。

このことは、内容や時間のまとまりをどのように構成するかという単元（題材）をデザインすることであり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげることができた。

## 【視点4】個別最適な学びと協働的な学びの取組を評価すること

各教科等の目標に準拠した評価と児童・生徒アンケートによる個別最適な学びと協働的な学びについての評価を合わせて行った。

単元の目標を評価することは、視点1から視点3までを踏まえて設計した単元（題材）の授業を評価することになり、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の充実に効果を上げているか確認することができた。



## 本研究において参考とした文献

- 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（平成 28 年 12 月 21 日 中央教育審議会）



読み取り or クリック

子供一人一人の興味や関心、発達や学習の課題等を考慮の上で、それぞれの個性に応じた学びを引き出し、一人一人の資質・能力を高めていくことが重要であること等が示されています。



- 小学校及び中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編（平成 29 年 7 月 文部科学省）



「個に応じた指導」の充実を図る際に、各学校において、情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること等が示されています。



読み取り or クリック

- 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（令和 3 年 1 月 26 日 中央教育審議会）



読み取り or クリック

「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動などを通じ、「協働的な学び」を充実すること等が示されています。



- 学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（令和 3 年 3 月版 文部科学省初等中等教育局教育課程課）



各教科等の特質に応じ、ICTを活用した新たな学習活動について、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の充実に効果を上げているか確認しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていくこと等が示されています。



読み取り or クリック

## 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

早稲田大学教育・総合科学学術院 教授 根津 朋実

今年度、「特別委員」として、講演（4月・11月）、授業講評（7月）、及び授業参観・講評（6月から10月、計5回）に関わってきた。

見出し「1」から「3」の提案は、11月の当所の研修会における講演内容に加筆修正した。「4」は、検証授業を参観した印象のまとめであり、同じく11月の講演内容に基づく。

### 1 行きつ戻りつ

見出しは、以下の言い換えである：学級全体の学習を「学習の個性化」や「個別最適な学び」につなげるには、ICTを用いた「子供（バラバラ）」の段階と、意見の共有や話し合いによる「子供（いくつかの集団）」の段階とを使い分け、往復してはどうか。

「個別最適な学び」を、「パソコンやタブレット型端末を用いた個々の子供による調べ物」とみなす認識は、やや表面的すぎる。「個別」の「個」は「孤」ではないし、「個別最適な学び」は「個別の学び」とは異なる。究極の「個別の学び」は、教師はもちろん、学級や学校も不要だろう。一方「個別最適な学び」は、個々の子供の学びが「最適」かどうか、当の子供だけでなく、他者による判断や評価を伴う。専門家としての教職員や他の子供による判断や評価が、「個別最適な学び」には欠かせない。

こう捉えれば、「個別最適な学び」は「協働的な学び」と結び付く。ICT (Information and Communication Technology) という語も、「C」：コミュニケーションを含む。よって、一人で作業する段階と、作業の成果を持ち寄り他者とコミュニケーションをとる段階とを想定できる。これらの「行きつ戻りつ」は、ICT機器の導入前から、広く行われてきた。ICT機器は、記録や撮影といったIT (Information and Technology) 用途に加え、コミュニケーションの道具でもある。ITが注目されがちだが、学習の本質は「C」にある。

### 2 長い目で

「1」と同様、見出し「長い目で」は、次の提案の要約である：学級全体の学習を「学習の個性化」や「個別最適な学び」につなげるには、1回の授業で全てを盛り込むのではなく、単元の計画レベルで中長期的に扱ってはどうか。

関連して、私の造語「1コマ名人」を紹介する。この造語は、研究授業などで、たった1回の授業でなんでも解決しよう（させよう）とする傾向を指す。たまたまその1回に欠席した子供は、学習の機会を失う。授業1回で終わる教科はない。多くの単元も、1回の授業ではこなせない。また、1回で「使用前」「使用后」のように鮮やかな「効果」を示す授業は、高濃度で取扱注意の「劇薬」である。その種の授業を毎日数回受けたら、ついていけない子供が出て当然であるし、授業以外では学べなくなるかもしれない。

「1」との関連で言えば、日々の授業で「行きつ戻りつ」を毎回達成する必要はない。本時は「子供（バラバラ）」の段階、数回の授業後に「子供（いくつかの集団）」や学級で集約する段階へと移行、という構成もあり得る。逆に、毎回必ず最後は学級で集約すると決めておく手もある。これらは当然、扱う内容や活動によって、使い分けを要する。

「1コマ名人」からの脱却には、「長い目で」が必須だろう。幸い、参観した授業はいずれも、単元の計画と本時の内容との関係が意識されていた。前時やそれ以前からの継続性も配慮され、本時で想定通り進まなかった場合、次時以降で修正する余裕があった。

### 3 中間や組み合わせを探る

見出しは、次の提案の言い換えである：「あれか、これか」（二項対立）を超えた、両者の中間や組み合わせを探ってはどうか。

具体的には、「子供（バラバラ）」と「子供（いくつかの集団）」とを別物とせず、それらを「長い目で」「行きつ戻りつ」させ、教科等の内容に則して組み合わせ、使い分ける試みを指す。この組み合わせや使い分けに関し、実践や研究が重ねられつつある。

一人1台端末でICT機器を使えば「個別最適な学び」だ...ここまでの整理や提案から、この認識はやや浅薄と言わざるを得ない。ICT機器はコミュニケーションの道具でもあるから、「協働的な学び」にも利用できる。また、「子供（バラバラ）」は「個別最適な学び」で「子供（いくつかの集団）」は「協働的な学び」...とも言いきれない。「子供（バラバラ）」は「子供（いくつかの集団）」への準備かもしれないし、「子供（いくつかの集団）」から「子供（バラバラ）」へと持ち帰る場合もあり得る。

「あれか、これか」という二項対立的な思考は、中間や曖昧さ、変容、判断の余地を奪う。「味方が敵か」「マルかバツか」等は、分かりやすいが、現実と対応するとは限らない。「個別最適な学び」「協働的な学び」を考える場合も同じである。

### 4 私見：検証授業を参観した印象

あくまで私見であるが、以下の表に、検証授業を参観した印象を整理しておく。

<ul style="list-style-type: none"><li>一人1台端末 多様な入力方式、個人差 授業で頻発する個別対応 ：大半は動作不良 持ち帰り、家庭学習</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>教室内の「初期設定」 スペース、机間移動、充電 座席、グループの根拠が鍵 双方向性、視覚重視 「書き合い、読み合い」</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>ICTの「使いどころ」 教科だけ？ 特別活動、家庭との諸連絡 「紙」と併用？ 記録、通信、相互参照 ... ICT</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>そのほか 視力のチェック 実名・匿名の使い分け ローマ字、キーボードの有無</li></ul>

一人1台端末：授業の内容以前に、多様な入力方式や個人差への対応が印象に残った。予期せず起こる動作不良に対し、教師への要請や子供同士で解決する姿も見られた。持ち帰りや家庭学習への対応はまちまちであり、今後も検討を要する。

教室内の「初期設定」：ICT機器を使う場所やスペース、授業以前に決まっている座席やグループの根拠が重要である。いずれも、学習の双方向性の質を左右する。また、画面により視覚が重視されるため、五感を働かせる課題や機会も必要だろう。

ICT機器の「使いどころ」：ITに限らず、通信やコミュニケーションに関わる。クラブ活動（小学校）や児童会・生徒会活動等での活用や家庭との通信や連絡にも使える。「紙」の代替物として、教職員間の業務利用の推進も有効と思われる。

2022年4月の本委員会における講演時、スライド資料で、「多摩地区、各校、教科等といった具体との関連」、及び「情報や知識により、問題意識はどう変わったか？...その確認と次への作業が重要」と示した。前者は、国や都の動向もさることながら、日々の現実で研究テーマをどう具体化するかという問い掛けだった。後者は、教職員自身の変容を問うた文言である。今年度の実践や研究により、子供がどう変わったかも確かに重要だが、それは教職員の問題意識の変容と不可分だろう。合わせて、何が変わらないか、何を変えたくないかへの気付きも、変容と同様に意義がある。その意味で、「あれはこうしておけばいいんだ」という「単純化」や「形骸化」による思考停止が、最大の課題かもしれない。

# 委員名簿

## 委員長



所長

曾根 稔

東京都多摩教育事務所

## 副委員長



指導課長

岡部 君夫

東京都多摩教育事務所

## 特別委員



教授

根津 朋実

早稲田大学 教育・総合科学学術院

## 部会長



校長

内田 辰彦

国立市立国立第八小学校

## 部会長



校長

三浦 利信

あきる野市立御堂中学校

## 委員〈実践事例1〉



主任教諭

青木 一也

稲城市立若葉台小学校

## 委員〈実践事例2〉



主任教諭

白石 誠

日野市立夢が丘小学校

## 委員〈実践事例3〉



主幹教諭

本郷 孝知

府中市立矢崎小学校

## 委員〈実践事例4〉



主任教諭

中山 伸也

奥多摩町立古里小学校

## 委員〈実践事例5〉



主任教諭

高橋 宏栄

昭島市立田中小学校

## 委員〈実践事例6〉



主任教諭

高橋 祐樹

清瀬市立清瀬第十小学校

## 委員〈実践事例7〉



指導教諭

二瓶 美紀

多摩市立北諏訪小学校

## 委員〈実践事例8〉



教諭

高橋 哲

狛江市立狛江第一小学校

委員 <実践事例 9>



主幹教諭

櫻木 崇史

国立市立国立第七小学校

委員 <実践事例 10>



主幹教諭

原田 芳洋

瑞穂町立瑞穂中学校

委員 <実践事例 11>



主任教諭

小野 亜紀

小金井市立南中学校

委員 <実践事例 12>



主任教諭

高木 圭樹

武蔵村山市立第五中学校

委員 <実践事例 13>



主幹教諭

近藤 壮一郎

あきる野市立御堂中学校

委員 <実践事例 14>



指導教諭

桐山 友布子

西東京市立田無第二中学校

委員 <実践事例 15>



主幹教諭

北島 友晴

東村山市立東村山第六中学校

委員 <実践事例 16>



主任教諭

山崎 瑠利子

町田市立南成瀬中学校

委員 <実践事例 17>



指導教諭

前川 卓哉

国分寺市立第五中学校

委員 <実践事例 18>



主任教諭

岩田 歩

調布市立第五中学校

事務局 東京都多摩教育事務所 指導課

統括指導主事	鈴木 輝
指導主事	森山 健史
指導主事	佐藤 宗一郎
指導主事	嶺井 勇哉
指導主事	川島 征也
指導主事(併任)	溝口 直哉
指導主事(併任)	安部 峰

教育専門員	松本 信之
教育専門員	辻 泰成
教育専門員	小林 正隆
学校教育指導専門員	富田 広
学校教育指導専門員	渡部 公威

東京都多摩地区教育推進委員会  
第28次計画(通算第49年次)報告書

令和5年2月

登録番号 4(2)

編集・発行 東京都多摩教育事務所指導課

所在地 〒190-0022 東京都立川市錦町4-6-3

電話 042-524-7222

印刷 株式会社シンソークリエイト

